

YAYOI

自動壁紙糊付機械

レクスター・ココ

LEXTAR COCO

スーパーナイフスリッター搭載

取扱説明書

安全のためご使用前に必ずお読み下さい



このたびは、当社壁紙自動糊付機械『**LEXTAR COCO**』をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に際し、事前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解いただいた上でご使用ください。ご不明な箇所がありましたら、巻末に記載しました当社の連絡先までお問い合わせ願います。

なお、この取扱説明書はいつもお手元に保管され、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

 ヤヨイ化学工業株式会社

お使いになる前に

●本機をご使用になる前に、下記の梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。

レクスター・ココ

LEXTAR COCO

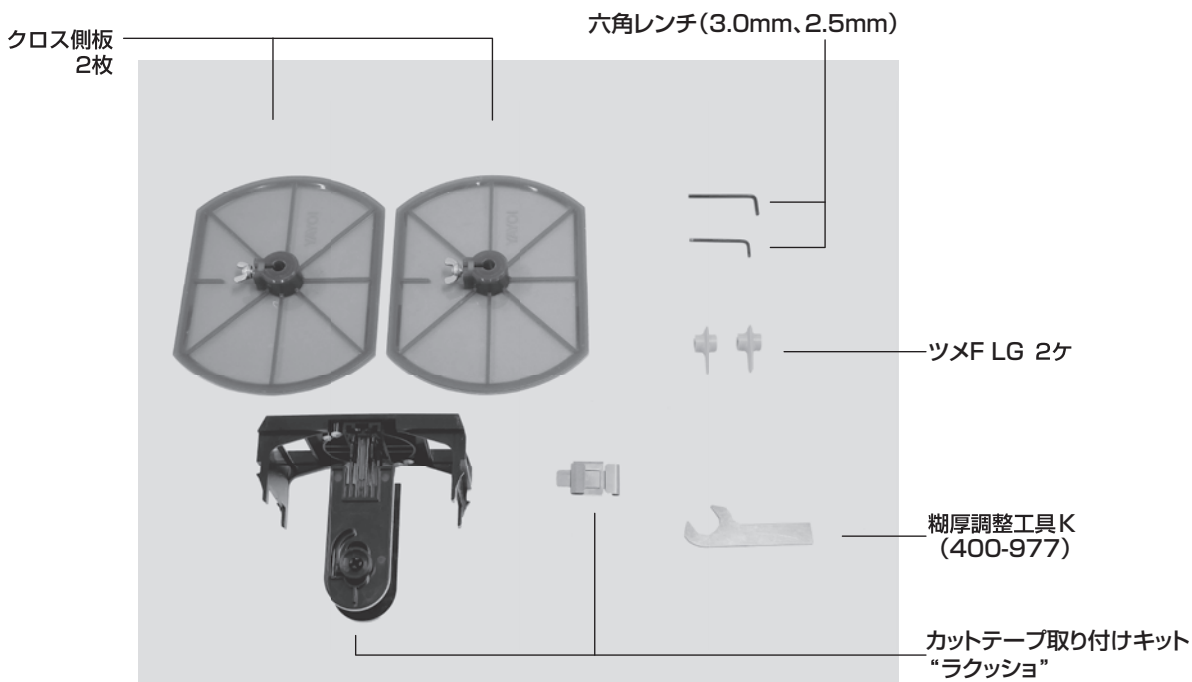
商品番号 401-420

- 1 糊付機械・本体
- 2 スーパーナイフスリッター
- 3 コントローラー
- 4 クロス芯棒
- 5 NEWテンションバー
- 6 取扱説明書（本書）・付属品
- 7 保証書



[取扱説明書]

[付属品]






目次











1	取扱い上のご注意	4
2	各部の名称	7
3	機械のセット	
	脚・テンションバー	11
	本体・コントローラー	12
	スリッター	13
4	作業準備	
	クロス原反のセット	14
	カットテープのセット	15
	糊の供給・糊厚調整	17
	ツメ位置の調整・裁断幅の調整	18
5	糊付作業手順	
	クロスの通し方	19
	壁紙裏面検尺機構	20
	糊付け作業・ウェイトローラー	21
6	コントローラーの操作方法	
	操作スイッチ	22
	操作パネル	23
	操作方法	24
7	本体部の掃除・手入れ	34
8	機械の調整・点検	36
9	スリッター刃物の交換方法	38
10	故障かな?と思ったら	40
11	別売オプション	42
12	仕様	43

自動壁紙糊付機械をご使用いただくには、正しい取扱いと定期的な保守・点検が不可欠です。本文をよくお読みいただき、十分にご理解された後、糊付作業ならびに保守作業を行ってください。

この取扱説明書では、誤った取扱いをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

-  **警告** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人身事故につながる恐れのある内容を示しています。
-  **注意** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、機械の破損・故障につながる恐れのある内容を示しています。
-  **メモ** …………… これを知っておくと便利という内容を示しています。

警告

-  **プラグを抜く**
煙が出ている、変な臭いや異音がする等の異常状態のまま使用すると、火災・感電等の原因となります。すぐにコントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **プラグを抜く**
作業終了後は、コントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **分解禁止**
コントローラーを分解したり、改造したりしないでください。感電・故障等の原因となります。内部の点検・修理は、当社各営業所に依頼してください。
-  **水ぬれ禁止**
コントローラーに水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障等の原因となります。屋外での使用や機械の洗浄時等は、特にご注意ください。
-  **禁止**
電源コードの上に重いものを載せたり、コードが機械の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線等）、当社各営業所に交換修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電等の原因となります。
-  **禁止**
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、電源コードの差込口には過度の負荷をかけないで下さい。コードや差込口が破損して火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
糊付機械作業中は、ローラーやギヤ等の間に指をはさまないように十分注意してください。
-  **電源OFF**
コントローラーは機械本体に着脱できるようになっています。着脱の際、必ず先に電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。ローラーの間に手を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりする等、思わぬ事故を未然に防ぎます。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、オクリダシローラーを取り外して行ってください。ドクターローラーとオクリダシローラーの間に手を巻き込む事故を未然に防ぎます。



警告

スリッター運転中には絶対に刃物に触れないでください。手を切ります。

また、スリッター停止中も十分注意してください。



分解禁止

スリッターのカッターボックスを分解しないでください。手を切ります。



禁止

コントローラーの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電等の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

濡れた手でコントローラーの電源プラグを抜き差ししないでください。感電等の原因となります。また、必ずアースをとってご使用ください。



禁止

機械の上に重いものを置かないでください。機械が変形・破損したり、落下してけがの原因となることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所等、不安定な場所に置かないでください。機械の誤作動や、転倒によりけがの原因となることがあります。必ず水平な場所で使用してください。



警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。



警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロック状態が不十分だと運搬時に脚が開き、足をけがする恐れがあります。ロック状態が悪い場合は、部品交換ないし修理をご用命ください。

注意



注意

精密機械ですから落としたり、ぶつけたり、極端な衝撃を加えないでください。



注意

電圧低下、電圧変動によりコントローラーが正常に作動しない場合がありますのでご注意ください。



ロック

コントローラー、スリッターは、本体から取り外して別に運搬してください。運搬中に機械が落下して破損する恐れがあります。機械本体と脚部を同時運搬される際は、機械本体・上下フレームのパチン錠、本体と脚のパチン錠を必ず掛けてください。



禁止

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所等、異常に温度が高くなる場所や、湿気の多い場所に長時間放置しないでください。機械の変形・故障等の原因となることがあります。



禁止

掃除をするときはワイヤーブラシなど、かたいものでこすらないでください。ローラー等の表面に局部的な力を加えると破損する恐れがあります。



注意

液晶表示は、使用温度範囲(0~40℃)を超えると、表示が見えにくくなる場合があります。また、低温(0℃以下)になると表示切替りのレスポンスが遅くなる傾向があります。低温時は予め10分程度、通電後、糊付作業を行ってください。



注意

液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなる場合があります。



注意

使用後はローラー、糊タンクは水洗いし、ステータ脚等、糊のついたところは、水を含ませた雑巾等で拭き取った後、乾いた雑巾で乾拭きしてください。洗浄、拭き取りが十分でないでないと部品の劣化や変色に至る場合があります。



注意

ドクターローラー、糊ローラーの水洗いは厳密に行ってください。乾燥後、薄い糊の皮膜が残っているだけでも、糊付けのムラ、かすれの原因となることがあります。



注意

オクリダシローラー、検尺ローラーに糊がついたときは必ず雑巾などできれいに拭き取ってください。糊がついた状態で放置するとひび割れすることがあります。



禁止

機械に糊を入れたまま長時間放置しないでください。特に機械が新品の使いはじめの時期は、必ず使用後に機械を洗浄してください。糊ローラー、ナラシローラー、糊上げローラー、オサエローラー、ドライブローラーが変色(腐食)することがあります。ローラーの変色は高温になるほど進行が早くなりますので、糊を付けたまま自動車への保管は特に気を付けてください。

注意



注意

経時により、オクリダシローラーや検尺ローラーが変色(黄変等)するばあいがあります。ローラー間のグリップ力を保持していれば、糊付性能に影響はありません。グリップ力が低下した際は、ピンチ圧を調整したり、場合によってはローラーの交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

『LEXTAR COCO』は、当社アクアマイルド及びルーアマイルドで均一な糊付けができるよう設計しております。糊の種類、粘性、使用条件等によって、糊付き状態にバラツキが発生します。レギュレーターに、アクアマイルド(又はルーアマイルド)を入れ、規定線までの水の量で希釈するとアクアマイルド(ルーアマイルド)溶液がつかれます。



注意

糊タンク内に糊を入れたまま一晩放置すると、糊の流動性が悪くなり糊切れを起こす場合があります。ご使用前に糊タンク内の糊をヘラで混ぜるか、一旦糊をレギュレーターに戻して再攪拌してください。



注意

製品出荷時、『LEXTAR COCO』の糊厚は、糊ローラーとドクターローラーの間間で左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に壁紙に糊を付けた状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合、糊付き状態を確認しながら、本書P36を参考に調整してください。



注意

本体部のコントローラー取付面(軸受カバー2)にシール等貼付しないでください。本製品は、コントローラーからの信号を非接触(コードレス)にて本体へ送信しています。シール貼付により信号伝達が阻害され、読み取り不良を発生させる場合がありますのでご注意ください。



注意

壁紙や接着剤等の材料、あるいは気温をはじめとしたご使用環境等の条件によっては、『LEXTAR COCO』の糊付性能、スリッター裁断性能、採寸性能等が十分に発揮できない場合があります。このような場合、予め試験使用しご確認された後、本使用してください。



注意

壁紙材料の種類によっては、壁紙を機械にセットした状態で放置すると、気中の湿気により幅方向に伸びるものがあります。このような材料を、スリッター裁断後そのままの状態では、湿気により壁紙が伸び、幅寸法がスリッターの設定から変化するため、切断面に段差が生じ美しい突き付け施工ができない場合があります。このような場合、放置時間を抑えるなど、予めご留意願います。



注意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロスのセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッターのカッター位置を左右同じにセットし、クロスは左右たるみが出ないよう原反を抑えながら機械に引き込んでください。



注意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロス原反の巻き状態が悪いものや、つぶれた状態の原反等では、まっすぐ切れない場合や耳の端部がつまる場合があります。巻きの悪いものは、耳をそろえ直してご使用ください。つぶれた原反のものは、巻き直すか矯正してからご使用ください。



注意

カットテープご使用の際、テープが蛇行、シワになる場合があります。テープはまっすぐに裁断されているものをご使用ください。



注意

脚部を折りたたむ場合は、本書P16を参考に、適宜カットテープの向きを変更してください。テープの巻きが大きく折りたためない場合は、テープをカットテープ取り付けキットから取り外してください。無理に折りたたむと、キットが破損する恐れがあります。



注意

壁紙や接着剤の種類、状況によっては、十分な性能が発揮できない場合があります。このような場合、摩耗した部品の迅速な交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

壁紙材料の種類(巾広の壁紙等)によっては、『LEXTAR COCO』による糊付けやスリッター裁断ができない場合があります。事前に壁紙の巾寸法、有効寸、リピート等をご確認願います。



注意

経時のご使用により『LEXTAR COCO』の構成部品が摩耗し、十分な性能が発揮できない場合、社営業所までお問い合わせいただき、部品交換ないしオーバーホールをご用命ください。



注意

『LEXTAR COCO』では、予め消耗を想定した部品があります。それらの部品につきましては、保証期間内であっても無償での部品取り替えはできませんので予めご了承ください。



注意

修理が必要な場合、施工現場にて修理するには修理内容に限度があります。厳密に修理するには、一旦当社へ機械を戻し、詳細な点検調整が必要なことを予めご了承ください。



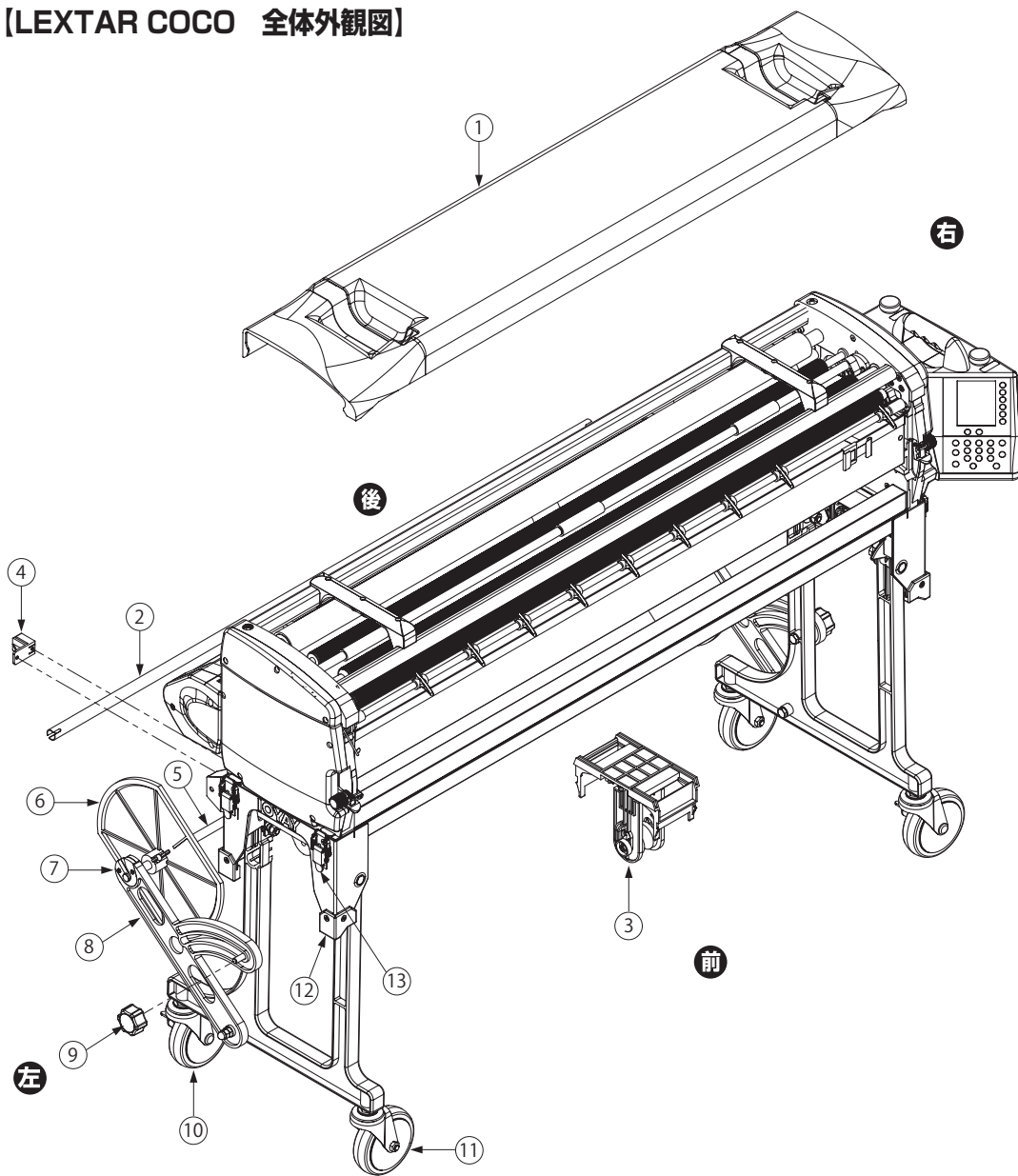
注意

『LEXTAR COCO』をご使用の際、取扱説明書、保証書をよくお読みいただき、ご理解された上でご使用ください。本機の保証期間は6ヶ月ですが、取扱い等に問題があった場合、保障できかねる場合がありますので予めご了承ください。

各部の名称

2

【LEXTAR COCO 全体外観図】

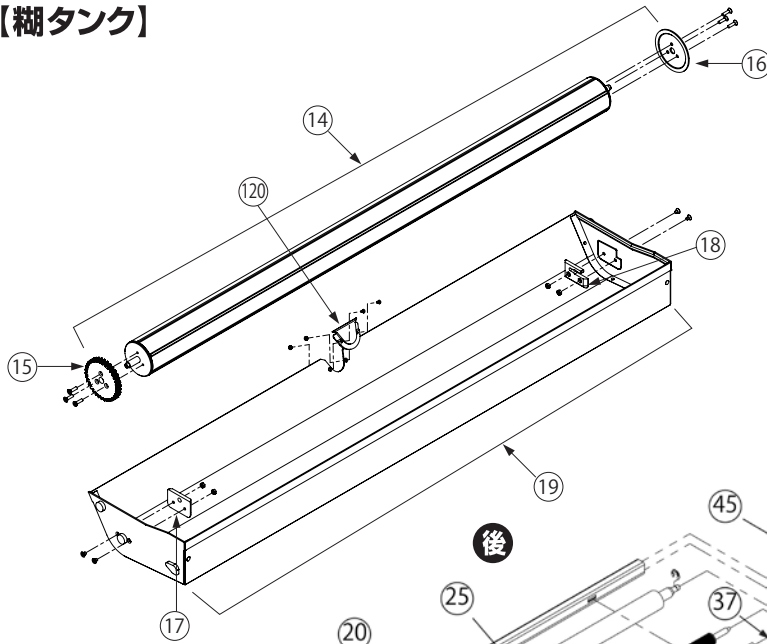


【全体外観図】

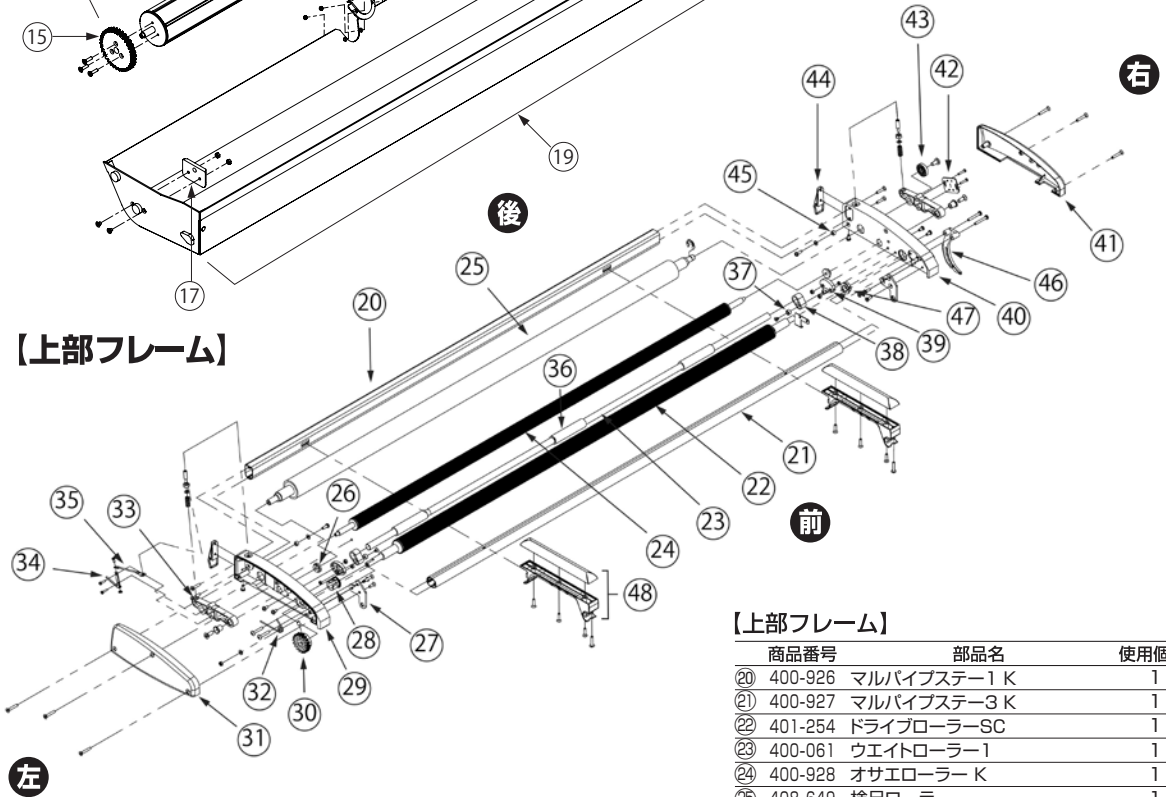
商品番号	部品名	使用個数
① 400-919	本体カバー K	1
② 408-003	NEWテンションバー3	1
③ 400-702	カットテープ取り付けキット ラクシヨ	1
④ 400-920	テンションバーロック K	2
⑤ 409-712	クロス芯棒	1
⑥ 404-988	クロス側板W(蝶ネジ付)	2
⑦ 408-604	クロス受け摺動材(ネジ側)ブラック	2
⑧ 408-605	クロス受け摺動材(ナット側)ブラック	2
⑧ 400-263	クロス受けブラケット	2

商品番号	部品名	使用個数
⑨ 400-264	ツマミ	2
⑩ 400-921	キャスターK ストッパー有100φ	2
⑪ 400-922	キャスターK ストッパー無100φ	2
⑫ 408-606	脚キャップC(左前・右後)ブラック	2
⑫ 408-607	脚キャップC(右前・左後)ブラック	2
⑬ 401-253	パチン錠SC	4

【糊タンク】



【上部フレーム】



【上部フレーム】

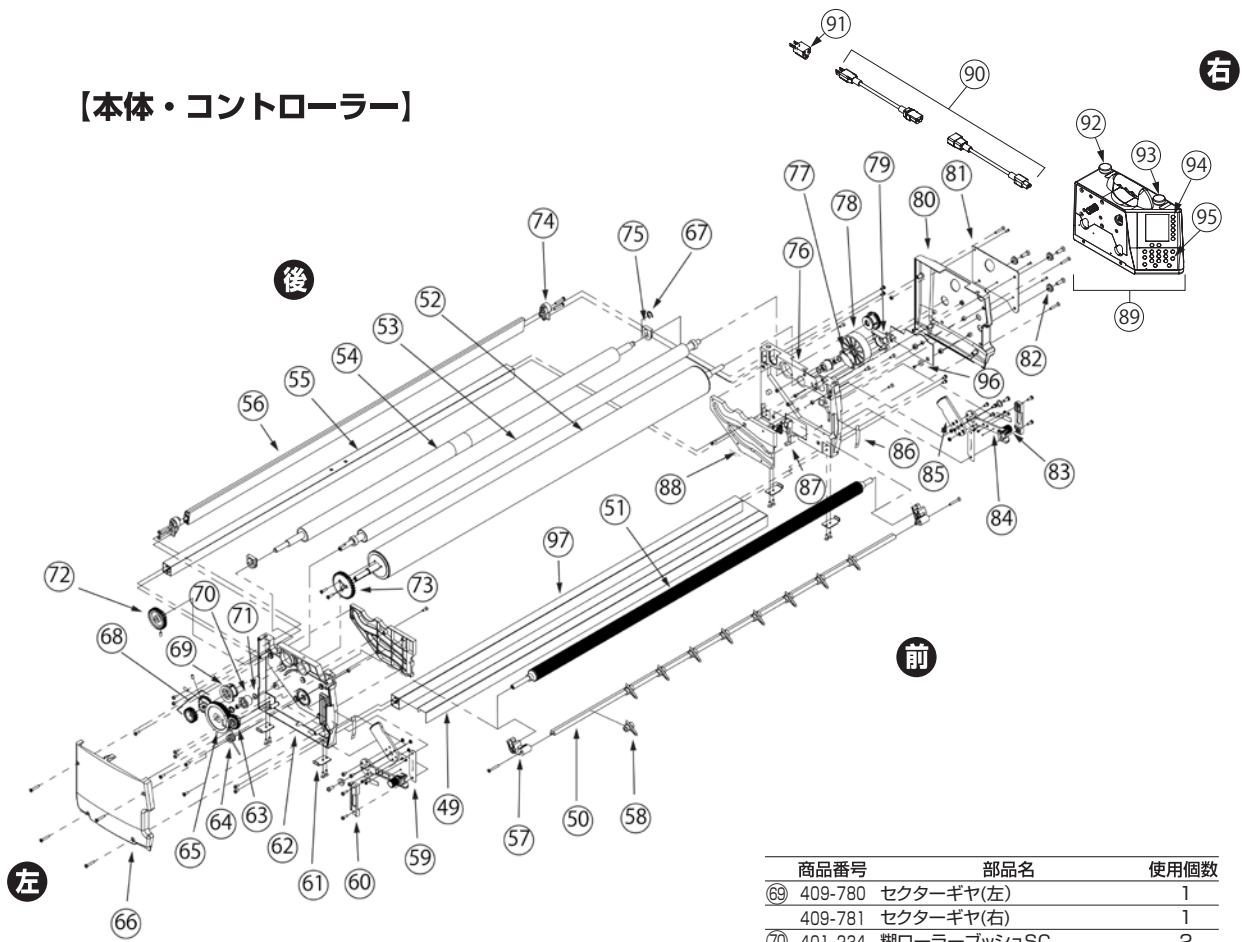
商品番号	部品名	使用個数
20	400-926 マルバipsター1 K	1
21	400-927 マルバipsター3 K	1
22	401-254 ドライブローラーSC	1
23	400-061 ウェイトローラー1	1
24	400-928 オサエローラー K	1
25	408-649 検尺ローラー	1
26	408-650 オサエローラープッシュ	2
27	400-063 ヒンジ板(左)LS	1
28	400-064 ヒンジ板(右)LS	1
29	400-929 ドライブローラーブラケット K	1
30	401-243 軸受板3SC	1
31	409-741 ドライブギヤ	1
32	401-430 軸受カバー3C	1
33	400-937 ドライブローラーパネ	1
34	400-933 検尺ブラケット K	2
35	409-744 静電防止金具	1
36	409-745 静電防止金具用電線	1
37	400-065 ウェイトローラー2	3
38	400-066 ウェイトローラー止具	2
39	400-067 ウェイトローラーブラケット1	2
40	400-068 ウェイトローラーブラケット2	2
41	401-245 軸受板4SC	1
42	401-431 軸受カバー4C	1
43	400-331 センサーケーブル	1
44	409-749 マグネットフィン1	1
45	409-751 パチン錠(本体)	2
46	400-070 スリッター止具	2
47	400-936 ダンパーギヤ1	1
48	408-653 ドライブローラープッシュ	1
49	400-932 取手 K	2

【糊タンク】

商品番号	部品名	使用個数
14	400-923 糊上げローラーセット K ※1	1
15	409-724 糊上げギヤ	1
16	400-055 糊止め バックンLS	1
17	400-924 糊上げブラケット(左) K	1
18	400-057 糊上げブラケット(右) LS	1
19	401-437 糊タンクセット C ※2	1

※1 15、16を部品として含みます。
 ※2 17、18、19を部品として含みます。14は含まれません。
 20 401-438 糊タンク穴止めキャップスベア付き 1

【本体・コントローラー】



【本体・コントローラー】

商品番号	部品名	使用個数
49	408-659 カッター定規	1
50	400-939 ツメステアー K	1
51	400-989 ナラシローラー K	1
52	400-940 糊ローラー K	1
53	400-941 ドクターローラー K	1
54	409-758 オクリダシローラー	1
55	400-895 ベースステアー EC5	1
56	401-434 マルパイプステアー2C	1
57	400-944 ツメステアーブラケット(左)K	1
58	400-945 ツメステアーブラケット(右)K	1
59	400-473 ツメF LG	9
60	409-769 糊厚調整ブラケット1	2
61	409-770 糊厚調整ブラケット2(左)	1
62	409-771 糊厚調整ブラケット2(右)	1
63	400-075 パチン錠フック	4
64	401-239 軸受板1SC	1
65	409-777 ナラシギヤ	1
66	400-896 上フターションシヨパンネ EC5	1
67	400-076 糊付ギヤ1LS	1
68	401-428 軸受カバー1C	1
69	404-840 Eリング Φ8	1
70	400-644 ドクターギヤ1, 2 NNセット	1

*400-959 ツメステアー K 一式(50, 57, 58)を
組み立てたものです。

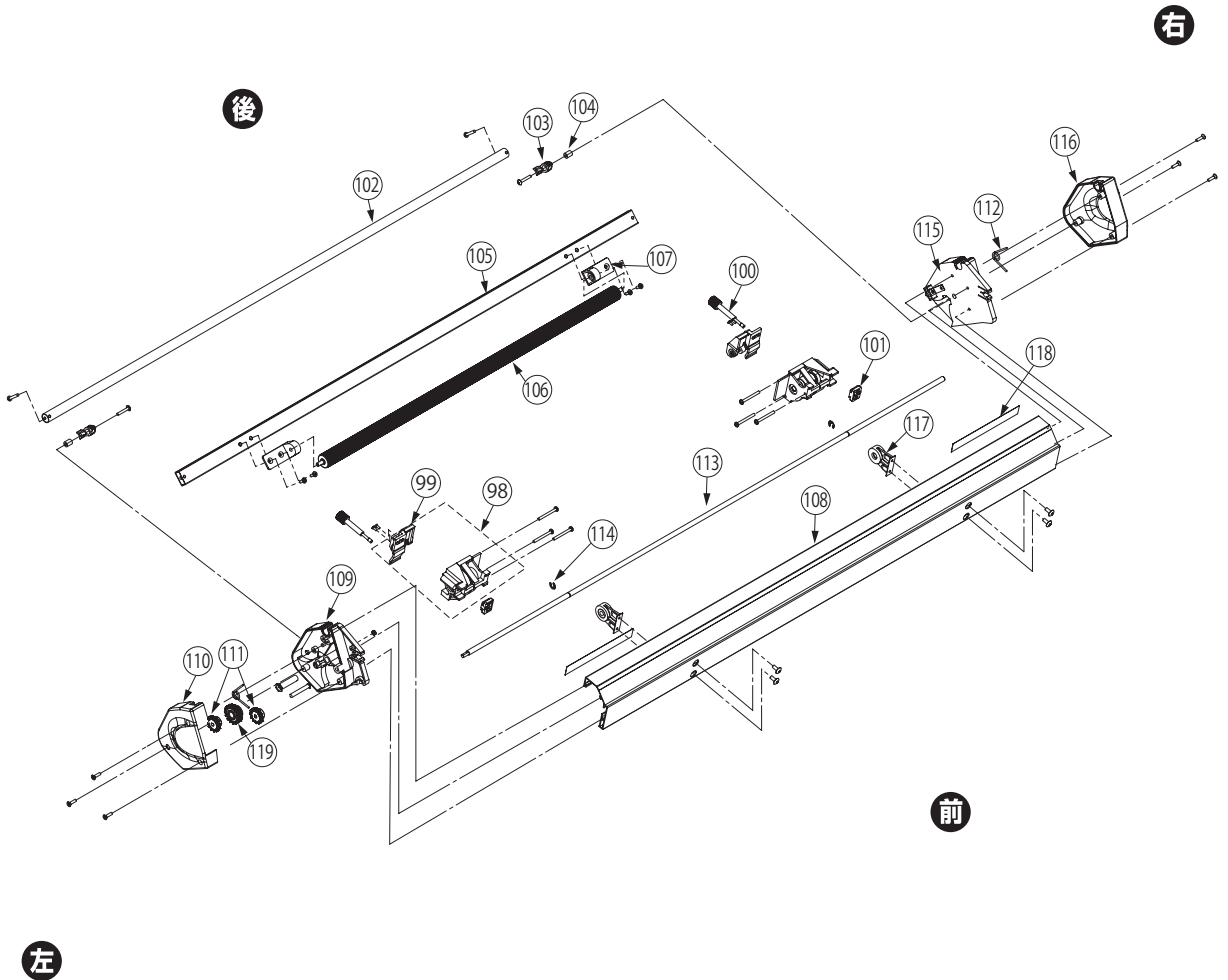
商品番号	部品名	使用個数
69	409-780 セクターギヤ(左)	1
70	409-781 セクターギヤ(右)	1
71	401-234 糊ローラープッシュSC	2
72	409-783 Oリング	2
73	409-779 オクリダシギヤ	1
74	409-784 糊付ギヤ2	1
75	400-577 丸パイプステアー補助台(左)QN	1
76	400-576 丸パイプステアー補助台(右)QN	1
77	409-785 オクリダシローラーブラケット(左)	1
78	409-786 オクリダシローラーブラケット(右)	1
79	401-241 軸受板2SC	1
80	400-956 ロータリダンパー	1
81	400-083 糊付ギヤ3LS	1
82	400-955 ダンパーホルダー	1
83	401-429 軸受カバー2C	1
84	409-792 PCB取付板	1
85	400-952 PCB止具 K	3
86	408-612 糊厚ツマミ ブラック	2
87	408-613 糊厚調整レバー(ツマミ付き)ブラック	2
88	400-646 糊厚調整ギヤ(左)	1
89	400-645 糊厚調整ギヤ(右)	1
90	409-797 糊厚調整シール	2
91	401-435 ノリオケSWカムC	1
92	401-251 ガイドレール(左)SC	1
93	401-436 ガイドレール(右)C	1
94	401-423 LEXTAR COCO コントローラー	1
95	401-257 電源ケーブル黒 ^{注1}	1
96	401-258 中継電源ケーブル黒 ^{注2}	1
97	400-987 変換プラグアダプタ黒	1
98	400-953 割込スイッチキャップ K	1
99	400-954 ストップスイッチキャップ K	1
100	400-871 表示シート 大 EC5	1
101	400-872 表示シート 小 EC5	1
102	409-798 センサー基板取付キャップ	3
103	400-938 定規ステアー K	1

*401-259 電源ケーブルセット黒(90, 91)のセット品です。

注1: 電源コンセント接続側

注2: コントローラー接続側

【スーパーナイツリッター】



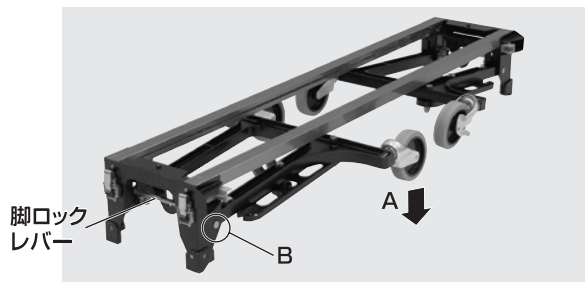
【スーパーナイツリッター】

商品番号	部品名	使用個数
⑨⑨ 401-235	カッターボックスセット(左)SC	1
401-236	カッターボックスセット(右)SC	1
⑨⑨ 401-255	耳切ガイドセット(左)SC	1
401-256	耳切ガイドセット(右)SC	1
⑩① 409-961	刃幅調整ツマミ	2
⑩① 400-560	スライド固定具Q	2
⑩② 400-962	スリッターテンションバーK	1
⑩③ 400-963	スリッターテンションバーブラケットK	2
⑩④ 400-964	スリッターテンションバー軸	2
⑩⑤ 400-965	スリッターレール2K	1
⑩⑥ 400-966	スリッターオサエローラー	1
⑩⑦ 400-967	スリッターオサエローラーブラケット	2
⑩⑧ 400-968	スリッターレール1K	1
⑩⑨ 401-247	軸受板5 SC	1

商品番号	部品名	使用個数
⑩⑩ 401-432	軸受カバー5C	1
⑩⑪ 409-816	駆動軸ギヤ	2
⑩⑫ 400-971	スリッターテンションバーバネ(左)	1
400-972	スリッターテンションバーバネ(右)	1
⑩⑬ 408-012	駆動軸	1
⑩⑭ 409-827	E型止め輪(呼び径6)	2
⑩⑮ 401-249	軸受板6 SC	1
⑩⑯ 401-433	軸受カバー6C	1
⑩⑰ 400-975	SSブラケット	2
⑩⑱ 409-822	スケールプレート(左)	1
409-823	スケールプレート(右)	1
⑩⑲ 409-778	テンションギヤ2	1

脚部の組立、テンションバーの取付

- ①脚ロックレバーを手で引き上げながらロックをはずし、矢印Aの方向に開いてください。
(第1図参照)
- ②ツマミを緩め、クロス受けブラケットを図の方向に倒してください。(第2図参照)
- ③ツマミを固定してください。
- ④NEWテンションバーを第2図のように設置してください。



第1図(脚部を折りたたんだ状態)

⚠ 警告

脚を外に開くとき、第1図のB部(4カ所)に手をはさむ恐れがありますので、十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

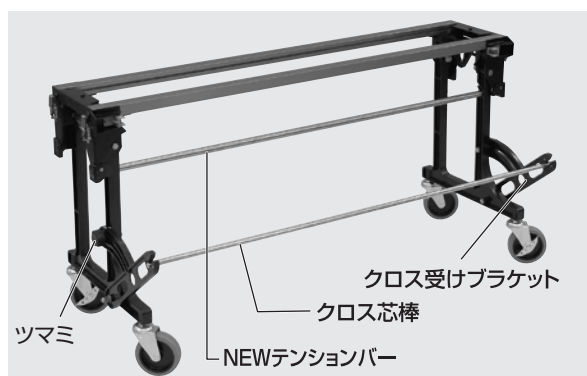
脚部組立の際、脚ロックレバーを解除しますと、脚部がフリーの状態になりますので、手や足などにケガをしないように注意してください。

⚠ 注意

脚部を折りたたむ際は、NEWテンションバーを予め取り外しておいてください。
(取り付けたままで、たためません)

❗ メモ

クロス芯棒はスリッターに、NEWテンションバーは脚部にそれぞれ収納できるようになっています。

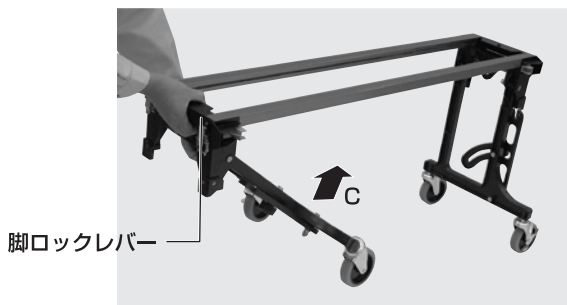


第2図(脚部組立状態)

脚部の折りたたみ、収納

第3図の脚ロックレバーを手で引き上げながら、矢印Cの方向に脚を折りたたみ、ロックさせてください。

(脚ロックレバーは握ったままの状態ですと、ロックはかかりません。ロックが解除されましたら、脚ロックレバーから手を離してください。組立・収納どちらの場合も同じです。)



第3図

本体部の取付

- ①キャスターのストッパー（2ヶ所）を下に押し（ON位置）、ロックさせてください。
- ②機械本体を背面より持ち上げ、脚部上部に載せてください。（第4図参照）
その際、脚部上部（左右2ヶ所）にある位置決めピンが本体部下部（左右2ヶ所）にある位置決めU溝部（第5図参照）に入るようセットしてください。
- ③パチン錠（4ヶ所）で本体部と脚部を固定してください。



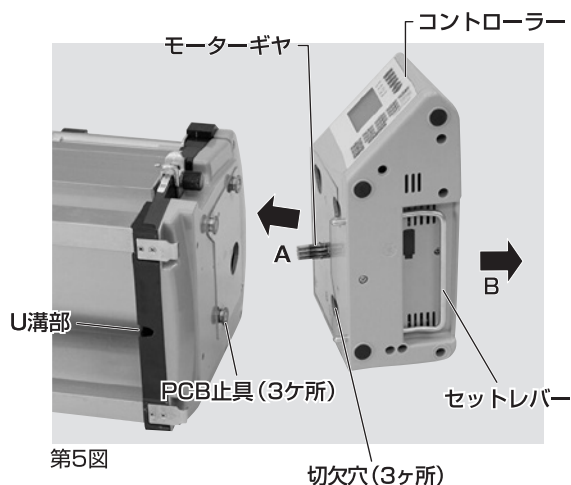
第4図

△ 注意

本体部、脚部をパチン錠（4ヶ所）で確実に固定してください。

コントローラーの取付

- ①Aの方向にコントローラーを持っていき、本体側面のPCB止具（3ヶ所）にコントローラー側の切欠穴（3ヶ所）をあわせてください。（第5図参照）
- ②セットレバー（コントローラー下部）をBの方向に引きながら、糊付けギヤ3とモーターギヤをかみ合わせた状態で斜め下向きにスライドさせ、コントローラーが完全に機械本体にロックされたところでセットレバーをはなしてください。コントローラーを上引っ張ってもはずれない状態が完全にロックされた状態です。



第5図

コントローラーの取り外し

コントローラーのセットレバーをB方向に引きながら斜め上向きにスライドさせるとコントローラーは取りはずせます。

△ 注意

安全の為にコントローラーは、本体から外すと動作しないようになっています。
故障ではありませんので本体にセットして動作確認してください。

△ 警告

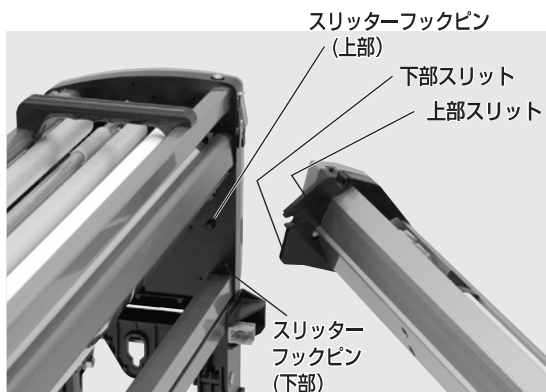
コントローラーの着脱を行うときは、必ず電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△ 注意

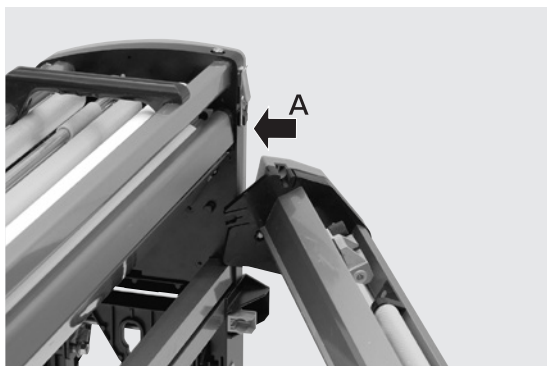
機械本体にコントローラーが正しくセットされていないと、故障の原因となることがあります。
また、運転中にセンサーエラーを表示したり、設定長さよりもクロスが長く出たり、動かなくなったりすることがあります。

スリッターの取付

- ①スリッターを機械本体の背面に取付けます。
スリッター軸受板（下部スリット）を機械本体の左右の軸受板にあるスリッターフックピン（下部）に引っかけます。
(第6図、第7図参照)
- ②スリッター上部をA方向に押し込み、軸受板のスリッターフックピン（上部）にスリッター（上部スリット）をセットします。
(第7図、第8図参照)



第6図 (スリッター取付前)



第7図 (スリッターを引っかけた状態)



第8図 (完全にスリッターをセットした状態)

⚠ 警告

スリッターの取付けを行うときは必ずコントローラーの電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

⚠ 警告

スリッターを取付けるときに刃物で手を切らないように注意してください。

⚠ 注意

スリッター取付時、スリッターの上部、下部が左右とも確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分な場合、スリッターが正常に動作しなかったり、落下する恐れがあります。
また運搬時、強い衝撃や揺れでスリッターが本体から外れる場合がありますので、ご注意ください。
※スリッターの駆動軸ギヤが正常にかみ合っていない場合、固定が不十分になります。

クロス原反のセット

- ①脚部のツマミを緩め、クロス受けブラケットを手前に引き出し、ツマミを確実に締め込んでください。(第9図参照)
- ②クロス原反にクロス芯棒を通し、クロス側板で両側からはさみ込みます。
- ③クロス芯棒の溝部をクロス受けブラケットにはめ込みます。クロス受けブラケットとの間隔が左右同じとなるようにクロス原反を中央にセットし、クロス側板で両側から固定し、ネジで確実に固定してください。なお、クロス側板と原反はすき間がないように固定してください。

⚠ 警告

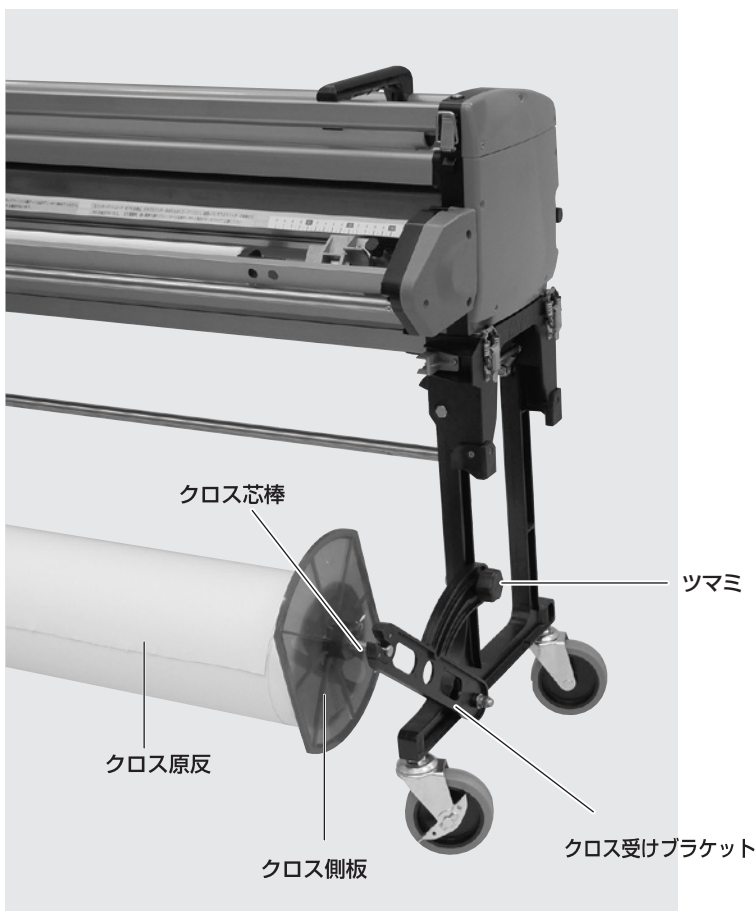
クロス原反にクロス芯棒を通す際、またクロス受けブラケットにセットする際等、手をはさんだり、原反を落下させ、けがをされないよう十分に注意してください。

⚠ 注意

クロス受けブラケットのツマミは確実に締めつけてください。
締まっていないと壁紙が蛇行する場合があります。

⚠ 注意

クロス原反を中央にセットし、スリッター裁断目盛を左右同じにしてもクロス原反の耳の幅が左右同じにならない場合は、クロス原反を耳の幅の狭い方へ少し移動してください。



第9図

カットテープのセット

- ① 糊付機本体から糊タンクを外し、定規ステーとベースステーとの間にカットテープ取り付けキット“ラクッショ”のスライドベースをセットします。(第10図参照)

△ 注意

“ラクッショ”のスライドベースは、パチンと音がするまでしっかりと押し込んでください。

- ② “ラクッショ”のテープ芯が側板の溝の下側にセットされていることを確認し、ツマミを持って側板2枚をスライドベースに挿入します。(第11図、第12図参照)

メモ

カットテープの芯の径に応じ、テープ芯を第15図のように付け替えてご利用いただけます。
テープ芯を取り外すには、40mm用の芯を25mm用の芯から引き抜いた後、25mm用の芯を溝の上側に持ち上げます。

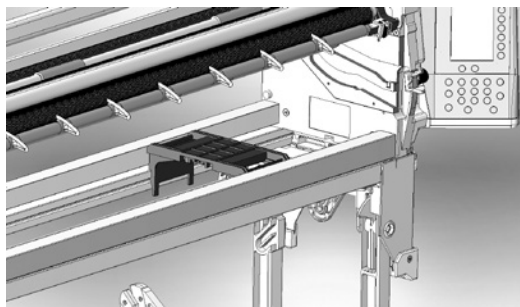
- ③ カットテープを2枚の側板の間に挟み込み、テープ幅に応じて側板の位置を調節します。

△ 注意

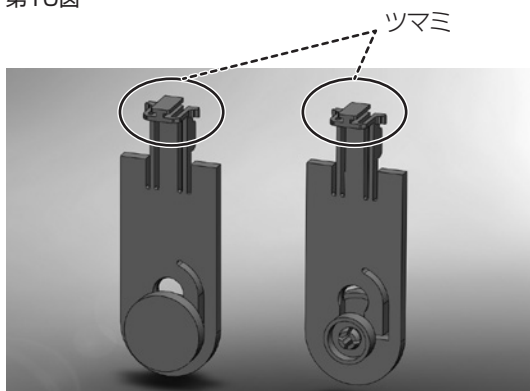
“ラクッショ”のスライドベースの裏側に、位置合わせ用の溝があります。(第12図参照) 側板の位置調整の際は、ツマミについているツメを確実に位置合わせ溝へ合わせてください。

△ 注意

重量の大きいカットテープを取り付けたままにしていると、側板の固定能力が劣化する可能性があります。長期間使用しない場合は取り外してください。

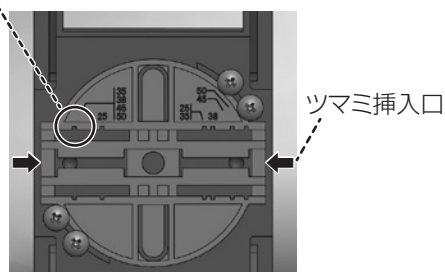


第10図



第11図

位置合わせ溝: テープの幅に応じて使用箇所を変更

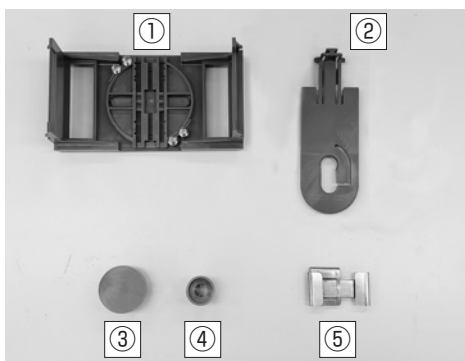


第12図

<カットテープ取り付けキット“ラクッショ”セット内容>

① スライドベース	1個	400-704
② テープ側板	2枚	400-705
③ テープ芯(40 mm)	2個	400-706
④ テープ芯(25 mm)	2個	400-707
⑤ 幅可変型テープガイド	1個	400-703

※①～⑤のパーツの個別注文にあたっては、いずれも1パッケージ当たり1個での梱包となります。また、①にはトラスネジ(品番404-991)および平ワッシャー(品番404-910)各4個が取り付けられた状態で付属しております。



④テープガイドを糊タンク前面の所定の位置に上から差し込んでください。

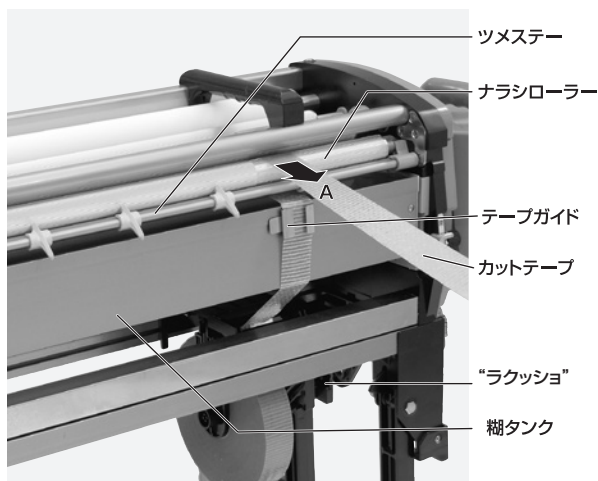
(第13図参照)

④“ラクッショ”のライドベースをテープガイド正面の位置に移動させた後、上部の間隙からテープを引き出し、ナラシローラーに沿わせて巻き付けます。

(第13図参照)

⑤テープをAのように引き出し、テープガイドに収めます。(第13図参照)

⑥テープ幅に応じてテープガイドの幅を調節したらセット完了です。



第13図

△ 注意

ナラシローラーのカットテープ通過部分に糊が付着している場合、必ず糊を拭き取ってからセットしてください。糊が付着しているとカットテープがナラシローラーに巻き込んだり、カットテープがクロスにダブついて付いたり曲がって付く場合があります。

△ 注意

カットテープとテープ側板との間にすき間があると蛇行する恐れがあります。すき間の無いようにセットし固定してください。

ℳメモ

カットテープの巻きの向きは、時計回り・反時計回りのどちらでもご利用いただけます。テープをベースの裏側に沿わせるようにしてセットしている場合で、糊付中にテープのツツバリなどが生じる場合は、テープの巻きを反対向きにセットしなおすと、改善される可能性があります。

△ 注意

テープの芯が変形したり、潰れたりしているものは正常にセットできない場合があるため、使用を避けてください。

<運搬時の取り扱いについて>

本製品では、テープの巻きが十分に小さい場合、テープを糊付機から取り外さずに脚をたたみ、運搬することができます。

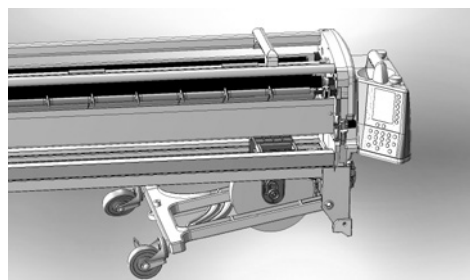
(巻きの大きさの目安:直径18cm以下)

折りたたみの際は、テープが折りたたんだ脚に接触しない位置へキットをスライドさせてください。

・テープ径が約14cm以上の場合は、テープの巻きを90度回転させて横向きにしてください(第14図)。

この状態でも地面と接触する場合は、テープ芯の位置を側板の溝の上側に移動させてください。

・テープ径が約14cmより小さければ、縦向きのまま折りたたむことが可能です。



第14図

△ 注意

テープの種類によっては、直径が18cmを上回るために、糊付機に取り付けたまま脚を折りたたもうとすると、どのようにセットしても地面と接触するものがあります。未使用に近い下敷きテープや、ひと巻きが長いカットテープなど、巻きが大きいテープをご利用の際は、折りたたむときに巻きの大きさに注意し、地面との接触が避けられない場合はテープをキットから取り外してください。

△ 注意

テープの巻きを回転させる際は、なるべく側板を持って動かすようにしてください。

△ 注意

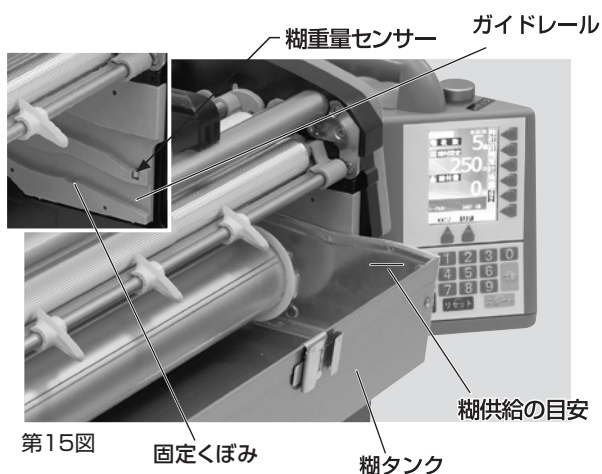
テープ芯の位置を側板の溝の上側に移動させる場合は、ベースが糊付機から外れないように押さえながら、テープを上を押しあげてください。

△ 注意

車に搬入する際にテープと車体が接触すると、ライドベースが外れる恐れがあります。

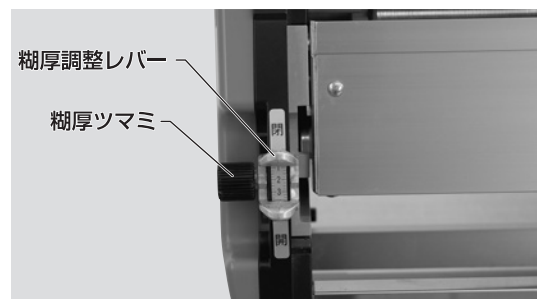
糊の供給

- ①糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり引き出し（約7cm）、固定位置で止めてください。ガイドレールには糊タンク用の固定くぼみと重量センサーがあります。（第15図参照）
- ②引き出した糊タンクの上から、糊を糊タンクの中全体に広がるように入れます。
- ③糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり押し込み所定の位置に固定してください。



糊厚の調整

本機正面の糊厚調整レバー（左右各1ヶ所）を上下することにより、糊ローラーとドクターローラーの間隔が変化しますので、最適な目盛位置にセットして糊厚ツマミを締めてご使用ください。尚、糊を入れ運転させながら行うと糊厚調整は容易です。（第16図参照）



第16図

△ 注意

糊を供給する際は、糊タンクをガイドレールの固定くぼみで止めて行ってください。糊タンクを引き出し過ぎると床に糊がタレたり、糊タンクが外れたりします。

△ 注意

接着剤の種類や希釈する際の水の添加量や希釈方法、希釈後の時間、あるいは気温等の環境条件等により接着剤の粘性が違います。最高スピードで運転しても糊があふれない程度に入れてご使用ください。入れすぎると糊が手前からあふれ出します。目安として、糊タンク両サイド内側のリブ以下になるよう糊を入れてください。

メモ

コントローラにて初期設定を行うことで、糊タンク内の糊量が少なくなった際に、E(Empty)の点滅表示と警報音でお知らせすることができます(参照P32)。

△ 注意

重量センサーは、右側のガイドレールにのみ付いています。（第15図参照）糊等が付着しますと、重量センサーが正常に作動しない恐れがあります。糊重量センサー、ガイドレール、糊タンク側面は常にきれいな状態を保ち、汚れた場合は水を含ませた雑巾等で拭き取って下さい。

△ 注意

糊厚を絞った状態で、空運転しないでください。異音が発生したり、機械が故障する場合があります。

△ 注意

出荷時、糊厚が左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に糊付けした状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合は糊付け状態を確認しながら、本書P36を参考に調整してください。

△ 注意

高粘性の接着剤を糊付けした場合、壁紙の種類によっては糊タンク内に糊が残存していても、糊切れを起したり、糊付有効m数が減少する場合があります。特に高粘性の接着剤で糊厚を絞り、糊付スピードを早くした場合、発生しやすくなります。その場合は、適度に粘性をゆるめたり、若干糊厚を増やしたり、あるいは糊付スピードをゆるやかにする等調整してください。

△ 注意

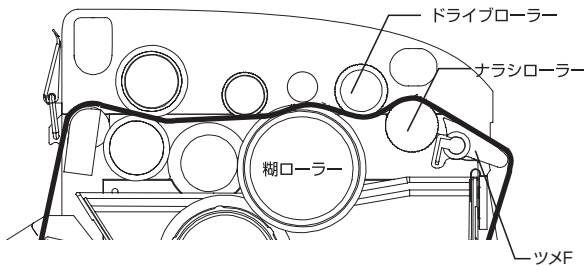
糊厚調整レバーはラベルの目盛範囲内で動かすようにしてください。無理に動かしますと機械の故障原因となります。

ツメ位置の調整

ツメの位置が悪いとクロス巻き込みや異音の原因となります。作業前に確認・調整を行ってください。

ツメF

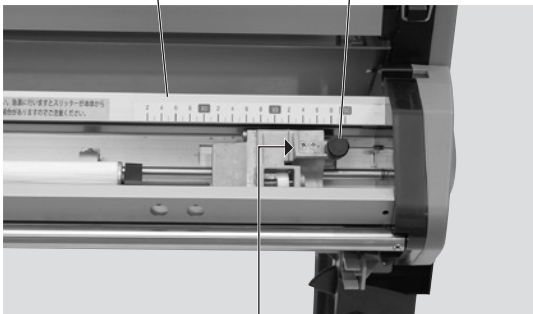
ナラシローラーに触れない程度に手で回し調整してください。



裁断幅の調整

- ①スリッターの刃幅調整つまみ（左右各1ヶ所）を反時計回りに2回転ほど緩めるとカッターボックスを左右にスライドすることができます。
- ②カッターボックス内のAのラインがスリッターの刃の位置を示しています。Aのラインをスケールプレートの所要寸法位置にあわせ、Aのラインが左右のスケールプレートで同じ値にあることを確認して刃幅調整つまみを締めてください。（第17図参照）

スケールプレート 刃幅調整つまみ



第17図

Ⓐ

△ 注意

ツメの位置が悪いと、動作時、ツメがローラーに当たり、異音が発生する事があります。

△ 注意

壁紙の種類によっては、オサエローラーやドライブローラーの溝が壁紙の表装面を押さえる為に異音が発生する事がありますが、異常ではありません。

㊦ メモ

ツメは消耗部品ですので、破損や磨耗が大きい場合、新しいものと交換してください。

※ツメFは2個予備として付属しています。

㊦ メモ

ツメFを下方向に強く回すと、ツメステアよりツメFを取り外すことができます。また、新しいツメFを取付ける場合は、ツメステアに強く押し込んでください。

△ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

△ 警告

裁断幅の調整は必ずコントローラーの電源を切った状態、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外した状態で行ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△ 注意

カッターユニットは、壁紙裁断時に出る切りくずやほこりが排出しやすい構造になっていますが、万一カッターボックス内に切りくず等が蓄積した場合、切れ味が悪くなります。その場合、竹串等で内部部品を傷めないよう慎重に取り除いてください。その際、必ずコントローラーの電源を切るか、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外してください。また、カッターボックスは分解しないでください。

クロスを通し方

糊タンク内に糊が入っている状態を確認してください。

- ①NEW テンションバーを脚部にセットします (P11 第2図参照)。
スリッターテンションバーを奥側に倒しておきます (第18図参照)。
- ②本体のパチン錠2ヶ所を外し、上部フレームを開けてください。
- ③コントローラーの電源をONにし、運転させると、スリッターの刃物が回転します。
- ④クロスを引き上げ、NEW テンションバーに通します。さらに、スリッターテンションバーとローラーとの間を通し、カッターボックスにくぐらせ、本体部までもっていき、運転を停止させます。カッターボックスにクロスを通すときは、原反を足で押さえ、クロスが張った状態で通してください (P20 第20図参照)。
- ⑤スリッターテンションバーを手前側に倒します (第19図参照)。
- ⑥原反を足で押さえながらクロスを手で引き、クロスが張った状態で上部フレームを閉じます。パチン錠を2カ所を締めて確実にロックさせます。

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないよう安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まないように十分注意してください。

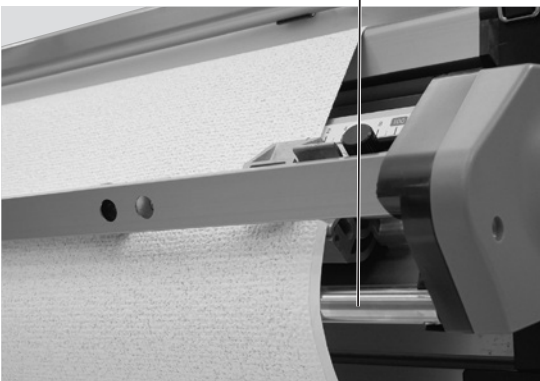
⚠ 警告

上部フレームを閉めるときは、手をはさまないように十分注意してください。また上部フレームを勢いよく閉じると部品の破損原因になりますので、ゆっくり閉じてください。

⚠ 注意

壁紙によっては、重いものや材料強度の弱いものがあり、テンションバーをかけると壁紙が上らなかつたり、壁紙やテンションバー等を傷めたりする場合があります。このような壁紙を使用される場合、予め試験使用し、状態によってはテンションバーの使用を避けてください。

スリッターテンションバー



第18図(スリッターテンションバーを開いた状態)

スリッターテンションバー



第19図(スリッターテンションバーを閉じた状態)



第20図(壁紙をセットした状態)

⚠ 注意

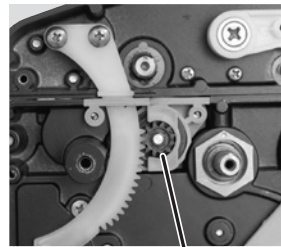
スリッターでクロスを裁断時、クロスはセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、カッターボックスの刃の位置を左右同じにセットし、クロスは原反を押さえて張った状態を保ちながら機械にセットしてください。上部フレームを閉じる時も同様に原反を足で押さえクロスを手で引き、張った状態で閉じて機械にセットしてください。

⚠ メモ

壁紙の種類や状態によっては、耳裁ちの必要が無い場合があります。耳裁ちしない場合はスリッターを取り外すか、スリッターテンションバーを手前に引いてセットし、カッター部を通さず、スリッターテンションバーの手前にクロスを通します。

⚠ メモ

"LEXTAR COCO"には、カウント検知基板(P37参照)を上部フレームの衝撃から保護するための緩衝機構が搭載されています。(参考1図および参考2図参照)
これらの部品が摩耗するなどし、交換を希望される場合は、当社営業所までお問い合わせください。



参考1図

ロータリーダンパー
(400-956)



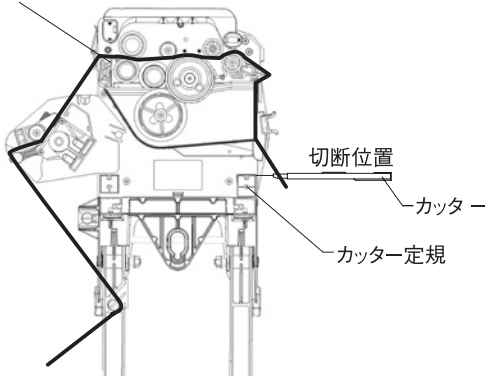
参考2図

上フターションバー EC5
(400-896)

糊付け作業

- ①糊付け作業を始める際、操作パネルの寸動を使用し、クロスに糊がついている部分が切断位置より少し長めになるように送ってください。
- ②カッター定規に添わせてカッターを走らせ、長めに出したクロスを実切ってください。
これでセット完了となります。
- ③操作パネルにて、クロス長さ設定を行い本機を運転してください。操作パネルの使用方法はP22からP28をご覧ください。

丸パイプステー



⚠ 警告

糊付け運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まれないよう十分注意してください。

⚠ 注意

カッターにて裁断する際は、必ずカッター定規に沿わせてください。

⚠ メモ

本機は糊付けスピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。糊付けスピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に、寸動スピードは寸動を押し続けている運転中に、割込運転スピードは割込スイッチで運転中に、それぞれ操作パネルの(+) (-) キーを押してお好みのスピードに設定してください。

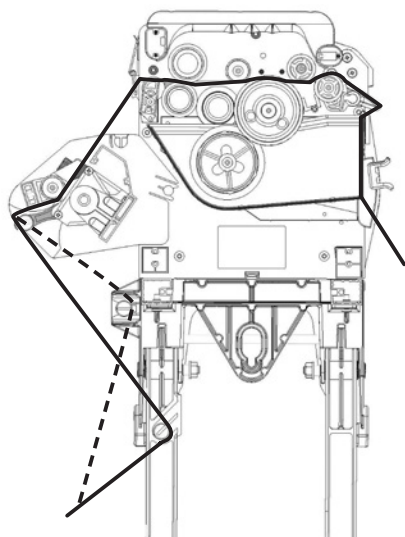
⚠ メモ

作業終了時、丸パイプステーにてクロスを実切すると片付けの際に便利です。

【壁紙のセット方法について】

壁紙の種類によっては、NEWテンションバー3を既定の位置にセットしても、糊付け中に壁紙のだぶつきなどが発生する場合があります。そのような場合、NEWテンションバー3を壁紙セット方法図1のように脚部の収納ブラケットにセットし壁紙を通す方法(破線の経路)に切り替えることで、改善する場合があります。

※原反とカッターボックスを左右均等に配置すること、セット時に原反を足で押さえ、壁紙を十分に張らせることにもご注意ください。



壁紙セット方法 図1

なお、このセット方法を使用する際は、作業中のNEWテンションバー3の脱落を防ぐため、必ず取付後にNEWテンションバー3を90度回転させ、切り欠き穴が見えないようにしてください(壁紙セット方法 図2)



壁紙セット方法 図2

ウェイトローラー

壁紙両端の糊付不良を抑えます。

壁紙によっては糊を塗布すると極端に横伸びする物があります。このような壁紙を機械にセットしたまま放置するとノリローラー手前でたわみが発生し、ノリローラーに密着せずに出てきます。結果、両端の一部に糊が付かない部分が発生します。

ウェイトローラーはたわんだ部分を強制的にノリローラーに密着させる機構です。(第21図参照)

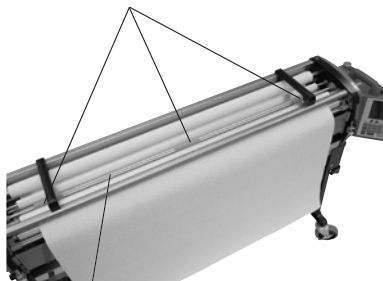
<使用方法>

壁紙をセットし、上蓋を閉じてください。壁紙両端と両サイドのウェイトローラー2の端面がほぼ同じになるように移動します。(第22図参照) ウェイトローラーを奥に倒してセット完了です。(第23図参照)(上蓋を開けるとウェイトローラーは手前に移動します)

△ 注意

ウェイトローラーの操作は、ローラーの両端を持って行ってください。

ウェイトローラー2



第21図

ウェイトローラー

ウェイトローラー2



第22図(手前に移動した状態)



第23図(奥に倒した状態)

操作スイッチ

割込スイッチ

壁紙をセットする場合や、カウントに関係しない運転をしたい場合に使用します。
一度押すとON、もう一度押すとOFFになります。

STOP

非常停止のときに使用します。

ON・OFFスイッチ



スリッター電源



注意

コントローラパネルのキースイッチ部分をカッター等の尖ったものや、ツメの先で押さないでください。故障の原因となります。



注意

コントローラの表面についた糊などの汚れを落とすときは、固く絞った雑巾などで拭き取ってください。



注意

コントローラは危険防止のため、本機から外すと動作しなくなります。本機にセットして動作確認を行ってください。

操作パネル

液晶画面

画面右側と下側にキーの項目が表示されます。
キーの項目は画面の切替により変化します。

画面切替

液晶画面に項目が表示され、キーを押すと画面が切替わります。

枚数

枚数設定時に使用します。

糊付設定

糊付け長さの設定を行うときに使用します。

決定

①入力した糊付設定・枚数設定等決定するときに使用します。

0~9

- ①数字キー。設定値入力に使用します。
- ②カウントストップ機能のON/OFF切替時に使用します。

寸動

- ①寸動で動かしたいときに使用します。押し続けている間だけ本体が運転します。

リセット

- ①糊付量の値を0にするときに使用します。
- ②入力した数値を0にするときに使用します。
- ③プログラムモードで、このキーを約3秒間押し続けると、選択したプログラムの削除が行えます。

スタート

- ①糊付設定及び枚数設定後、運転するときに使用します。
- ②プログラムモードで、このキーを約3秒間押し続けると、プログラムの追加が行えます。

メモ

時計は出荷の段階で時間を合わせています。時間にずれが生じた場合は、初期設定画面の時間設定にて現在の時刻を入力してください。(P32参照)

コントローラーの初期化方法

STOPスイッチおよび画面右側の切り替えキーの一番下のボタンを同時に押しながら電源を入れ、表示される画面の指示に従ってください。液晶画面や本体の動作に異常があった場合は、一旦この方法で本体を初期化し、異常が修復できない場合はメーカーにご連絡ください。

操作方法

本機は、次の2つのモードに従って操作することができます。

通常モード

…各種設定をその都度入力していく通常の糊付け作業方法

プログラムモード

…予め設定しておいたプログラムデータに基づいて順に糊付けしていく作業方法

これらのモードは、画面右下の“プログラム”キーを入力することで順次切り替えることができます。

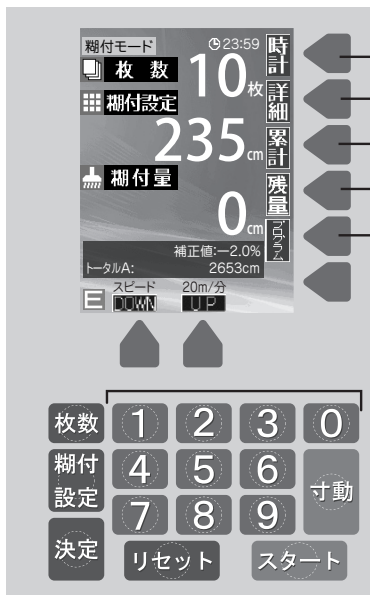
※通常モードに移行する際は“糊付”に表示が変わります。

操作方法・1

通常モード

- ①糊付設定を押します。背景が白くなり入力待ち状態になります。
 - ②糊付けしたい数字を入力し決定を押してください。押し間違えたときはリセットを押してください。
(右図は235cmが入力してあります)
 - ③枚数を押してください。“カウント”の表示が“枚数”になり背景が白くなります。
 - ④糊付けしたい枚数を入力し決定を押します。(右図は10枚が入力してあります)
 - ⑤スタートを押すと糊付けを開始します。糊付けが進むにつれ、糊付量がカウントされ、235cmになった時点で、糊付けが停止します。
 - ⑥停止すると、枚数表示が9枚となります。
 - ⑦この後⑤と⑥の作業を繰り返します。枚数が1枚づつ減っていき、0になった時点でスタートを押しても機械は動かなくなります。
- 枚数に関係なく糊付する場合は枚数を押して、リセットもしくは0を入力し、決定を押してください。“カウント”と表示されます。
この後、スタートで糊付けし、設定値に達するとカウントが加算されます。

《コントローラ表示画面》



時計・カレンダー表示
(P28を参照してください)

詳細(日報)表示
(P27を参照してください)

累計
糊付量のトータルを通常糊付画面に表示できます。
トータルはA・Bの2種類があります。

残量値入力画面
(P31を参照してください)

プログラムモード
予め設定しておいたプログラムデータに基づいて順に糊付けしていく方法
(P25,P26を参照してください)

△ 注意

糊付設定を変更するときにはリセットを押して糊付量表示を0cmにしてから行ってください。
糊付量の値をリセットしないまま、糊付設定に新しい値を入力してスタートすると、新しい設定値が糊付量の値よりも大きい場合、その糊付量の値から加算されます。

メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。
糊付スピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に設定します。
寸動スピードは寸動を押し続けて運転中に設定します。
割込運転スピードは割込スイッチで運転中に設定します。
各設定は画面下のスピードで設定してください。
画面下部に現在のスピードの目安が表示されます。(X m/分)
表示は4m/分~20m/分の範囲で調整できます。

プログラムモード

プログラムモードを使用するには、通常モード時に画面右下の“プログラム”キーを押してください。プログラムは3画面分用意されており、各画面につき100件まで設定できます。

〔プログラムの設定値入力〕

- ① 初期状態では、画面上部にNo.001/001と表示されています。糊付設定を押し、設定値を入力し、決定を押します。
- ② 枚数を押し、設定枚数を入力し、決定を押します。プログラムNo.1が完成です。
- ③ 新たにプログラムNo.2を設定するには、決定を押しながら画面下部のスピードUPを押します。
- ④ 必要な情報を入力し、プログラムNo.2を作成します。
- ⑤ 同様にして、プログラムNo.3・4・・・と設定します。



〔プログラムの設定確認・修正〕

決定を押しながらスピードUPあるいはDOWNを押すことによって、任意のプログラム番号を呼び出せます。

メモ

画面右側の詳細を押すとプログラムの一覧を見ることができます。画面右下の▲▼で任意のプログラムが呼び出せます。設定値の確認や修正をしてください。(P27 参照)

〔プログラムを間に挿入するには〕

- ⑥ 追加したい箇所のプログラムNoを選択し、スタートを約3秒間押し続けます。プログラムの挿入画面が表示されます。
- ⑦ 決定を押すと画面がプログラム入力待ち状態になりますので、1・2に習って設定値を入力してください。プログラムの追加を中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。
- ⑧ プログラムを追加した場合、追加したプログラムNo以降はすべて記憶致します。

〔登録したプログラムの実行〕

実行したいプログラムNoを呼び出し、スタート・リセットで糊付けしていきます。選択したプログラム内容が全て実行されると、スタートを押しても糊付けは行いません。

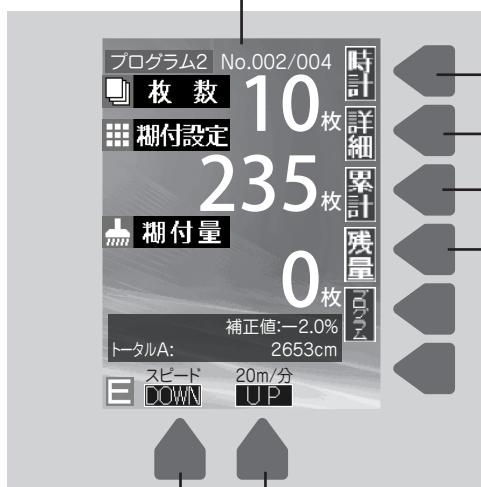
〔プログラムを削除するには〕

- ⑩ 削除したいプログラムNoを選択し、リセットを約3秒押し続けます。
プログラムの削除画面が表示されます。
- ⑪ 決定を押すと指定したプログラムNoが削除され、次に設定していたプログラムがそのNoに入ります。
削除を中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。

〔登録済みのプログラムを全てクリアするには〕

- ⑫ 画面右下の初期化ボタンを押します。プログラムのオールクリア画面が表示されます。
- ⑬ 決定を押すとプログラムがオールクリアされます。
オールクリアを中止する場合は決定ではなく、リセットを押してください。

プログラム No
現在糊付している
プログラムを表示



時計・カレンダー表示
(P28を参照してください)

詳細表示
(P27を参照してください)

累計
糊付量のトータルを
表示できます。
トータルはA・Bの
2種類あります。

残量値入力画面
(P31を参照してください)

スピード調整

4m/分～20m/分までUP・DOWNの操作で任意に調整できます。
割込速度を変更したい場合は割込動作中に行ってください。
寸動速度を変更したい場合は寸動動作中に行ってください。

メモ

同じ間取りの部屋の施工が続く場合などにプログラムモードを利用すれば、糊付け作業中に枚数などを確認して入力しなおす手間を省くことができます。

詳細画面

“詳細”キーを押すと画面左側に表示されます。これまでに実行した糊付けの内容と、実行した時刻を一覧で表示します。(3日分保存します。古いデータから削除します)

(通常糊付詳細画面)

詳細表示欄
150×3は150cmを3枚糊付けしたことを表します。
245×4は245cmを4枚糊付けしたことを表し、10時40分に4枚目を糊付けしています。
日付けが変わった場合空欄になります。

糊付け時刻表示
詳細表示欄で選択中の項目を糊付けした時刻を表示します。

重量センサー
糊オケが軽くなると点滅し、重くなると消えます。

時計・カレンダー表示
(P28を参照してください)

拡大画面(P28)に移行します。
※プログラムモードでは通常画面に移行します。

残量入力画面
(P31を参照してください)

スクロール
詳細表示欄(画面左)の糊付けした項目のリストを選択できます。選択中の項目は白抜きで表示されます。

スピード調整
4m/分～20m/分まで任意に速度調整できます。寸動・割込も同様に速度調整できます。

(プログラム詳細画面)

プログラムの詳細
入力したプログラムの一覧を確認する事ができます。
白抜き文字は糊付け完了済み、黒文字は未完了です。(中段から上が糊付け完了、下が未完了です)
また、パネル右下のスクロールで項目を選択でき、プログラムの追加や削除も行えます。(P25参照)

スクロールで糊付け済の物を選択すると、糊付けした時刻を下に表示します。
(245×4は12時36分に糊付けしています)

プログラム No
現在のプログラムが何番目か表示します。左図では56ヶのプログラムを入力しており、19番目をこれから糊付けします。

スクロール
画面右側の詳細部でプログラムを選択できます。画面の例では245×4が選択されています。

メモ

この画面では下へスクロールしながら設定値を順に入力し、入力が終わりましたらスクロールで最初の位置まで移動して糊付けを始めてください。

メモ

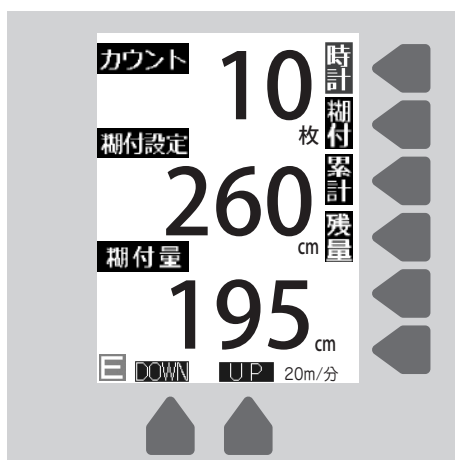
この画面のまま糊付けを行うことが可能です。また、糊付けした時刻の表示は糊付けした壁紙のオープンタイム等にも利用できます。

拡大画面

通常の糊付画面にあったトータル、残量、補正值などの表示が省かれ、枚数や糊付設定などの数値がより大きく表示されます。

また、画面の色調が白黒ベースに変更され、より数値を確認しやすくなっています。

画面右側の“糊付”キーを押すと、通常の糊付画面に戻ります。



時計画面

時計は出荷の段階で時間を合わせています。時間にずれが生じた場合は、初期設定画面の時間設定にて現在の時刻を入力してください。(P32参照)

“時計”キーを押すか、しばらくの間糊付作業をしていない場合、この画面に切り替わり、現在時刻やカレンダーを表示します。※切り替わる時間は設定できます。(P30参照)

カレンダー表示

当日は白抜きで表示されます。先月や来月を確認したい場合は、右側のスクロールキー(矢印)で切り替えることができます。

時刻表示

現在の時刻を表示します。

作業内容

この画面に切り替わる前に設定していた糊付内容を表示します。

初期設定画面

カレンダー表示時間・累計切替・端末検知・ポンプ連動を設定できます。(P30参照)

糊付画面に戻る

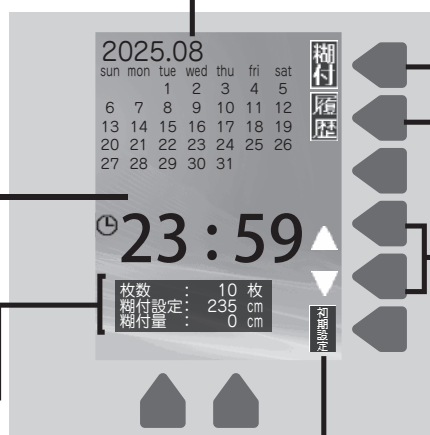
プログラムモードを使用していた場合はプログラム画面に戻ります。

履歴画面

日付毎に何m糊付けしたかを一覧で表示します。(P29参照)

スクロール

カレンダーをスクロールさせます。先月以降を確認したい場合は上を押します。来月以降を確認したい場合は下を押します。



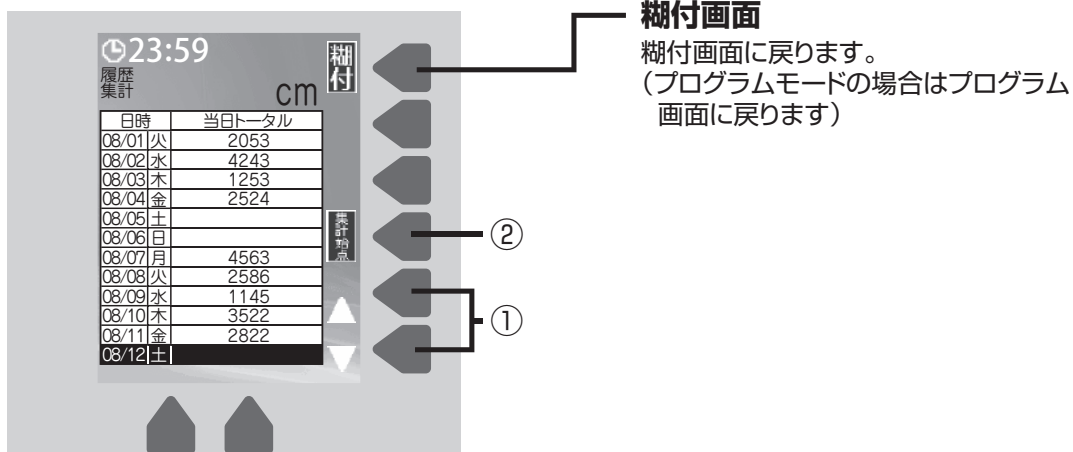
履歴画面

日付ごとの糊付トータルを表示します。また、任意の期間の糊付トータルを集計することも可能です。

このデータは過去3ヶ月分保存しており、古くなったデータから順に消去していきます。

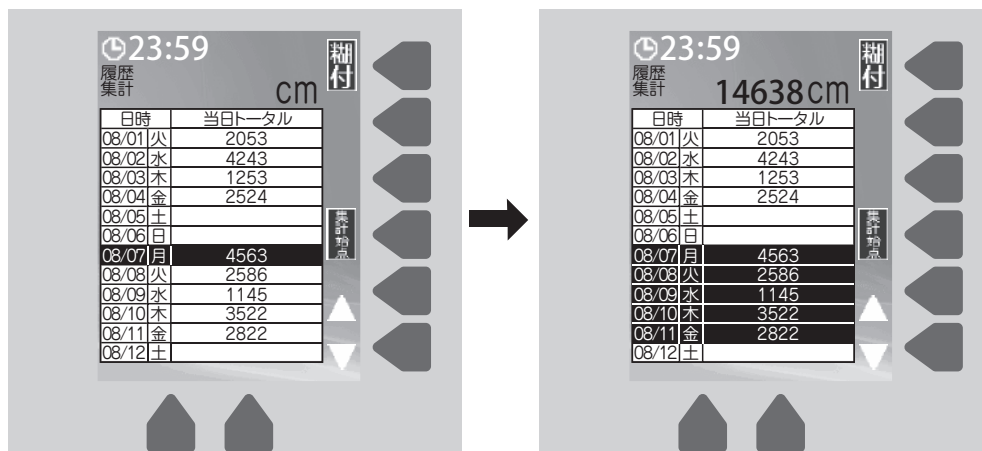
期間の集計の方法

- ①で集計したい日付の最初の部分にカーソル（背景が黒の部分）を合わせます。
- ②の“集計始点”キーを押し、①で集計したい終わりの部分まで移動させます。
- 集計が画面上部に表示されます。



下記画面での例（9/24～9/28まで集計する）

- ①でカーソルを9/24に合わせます。
 - ②を押してカーソルを9/28まで移動させます。
- 色が変わった部分の集計が画面上部の集計に表示されます。
(色が変わった部分を順次累積していきます)



初期設定画面

カレンダー表示時間

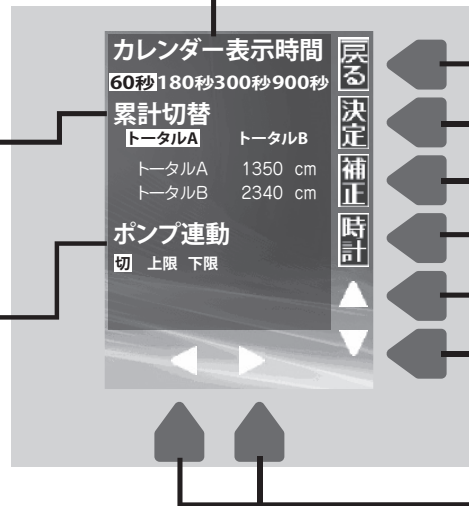
糊付画面で何も操作していないときに、自動で時計画面に切り替わるまでの時間です。

累計切替

糊付画面で表示するトータル値を2種類から選べます。

ポンプ連動

重量センサー機能を利用する場合に選択します。



糊付画面に戻ります

決定

補正入力画面

(P31を参照してください)

時計設定画面

(P32を参照してください)

スクロール

上下で各設定を選択し
左右で設定内の項目を
選択します。

【補正機能】

クロスの種類によっては、多少設定長さに対して長く出たり、短く出たりすることがあります。このような場合に、クロスの糊付け長さを割合で補正する機能です。



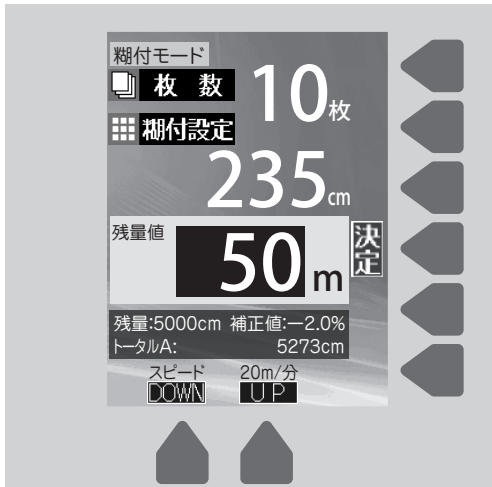
- ① 初期設定画面の“補正”キーを押します。
この時補正値は左図のように0.0%になっています。
- ② 画面右側の上下のキーで補正値を設定します。補正値は-2.0%～+2.0%の範囲で設定できます。
- ③ 決定キーを押すと補正値が入力され糊付画面下部に表示されます。

補正機能の解除

補正の設定値を0.0%にして決定を押せば、補正値は解除されます。

【残量設定】

任意の長さの壁紙を糊付けし終えた際に、警報音でお知らせする機能です。糊タンク内への糊の補給や、壁紙残量の確認を行う際の目安としてご利用いただけます。



- ① 糊付画面右側の“残量”キーを押します。左図のように残量設定画面が表示されます。
- ② パネルのボタン(数字)を入力します。(左図は50入力)
- ③ 決定キーを押すと、入力した値が残量として糊付画面下部に表示されます。
- ④ 糊付け作業を進めるに従い、残量の数値が減っていきます。
- ⑤ 残量の数値が0になったら警報音がなります。

残量設定機能の解除

残量設定画面を開きリセットボタンを押すと、入力してある数字が0になります。0で決定を押せば機能が解除されます。

⚠ 注意

残量値が0になり警報音が鳴った後は、残量設定画面で機能を解除するか数値を再入力しないと、糊付作業をするたびに警報音が鳴ります。



【時計設定】

初期設定画面右側の“時計”キーを押すと、日付・時刻の設定を行えます。画面下部の矢印キーでカーソルを合わせ、数値を入力していき、入力を終わったら決定キーで初期設定画面に戻ります。

メモ

時計は出荷の段階で時間を合わせています。

【糊タンク重量センサー】

重量センサー(P17の第19図参照)で糊タンク内の糊の残量を検知し、糊の補給が推奨されることをお知らせする機能です。

設定方法

- ①初期設定画面を開き、上下のスクロールで“ポンプ連動”に項目を合わせます。
- ②左右のスクロールで「下限」を選択し、決定ボタンを押します。



△ 注意

重量センサーは粘度の違いや、糊付スピードの違いによって多少反応する重量が異なります。糊を供給する目安としてご使用ください。連動の際に重量センサーは使用条件によっては正常に動作しない場合があります。その際は「残量設定」による連動を行ってください。(P31【残量設定】参照)

“下限”モードでは、Eマークが点滅すると、糊を投入するか初期設定画面で設定を“切”にしない限り、糊付作業のたびに警報音が鳴ります。製品出荷時はポンプ連動は“切”にしております。

△ 注意

原液タイプの糊を使用する場合は、コントローラの運転スピードを8m/分以下に設定し糊付を行ってください。運転スピードが8m/分より大きい状態で糊付を行った場合、重量センサーが動作する前に糊切れが発生する可能性があります。

【エラー表示画面】



入力電圧異常

電圧が70V以下もしくは130V以上の場合、適正な電圧では無い為、左記エラー表示を点灯し、コントローラを停止します。

適正な電圧で再度作業してください。



過負荷異常

ギヤ・ローラー等に噛み込みや巻き込み等があり、コントローラのモーターに過負荷がかかった場合、左記エラー表示を点灯し、コントローラを停止します。

原因を取り除き再度作業してください。



センサー読み込み異常

糊付け運転中、上部フレームのパチン錠が閉められていない場合、コントローラが本体に正しくセットされていない場合、あるいはセンサー部分に異常があった場合に左記エラー表示が点灯します。

(本体側センサーケーブルに水や糊が付着していないか等も確認してください)

本体部の掃除・手入れ

7

掃除・手入れの程度は機械の性能と寿命に大きく影響します。糊付作業終了後は、以下のよう
うにして掃除及び手入れを行ってください。

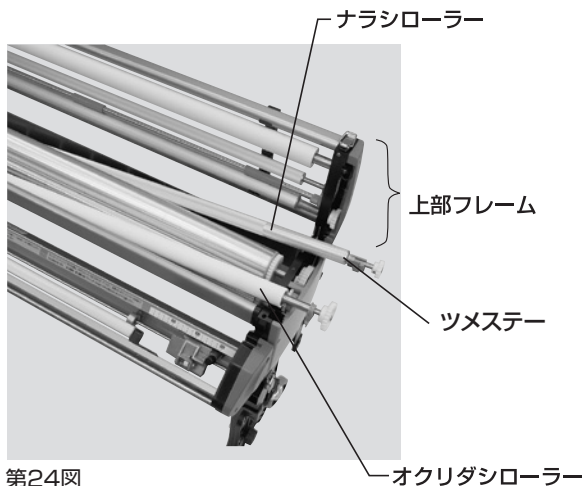
- ①機械本体を空運転させながら、糊厚調整レバーを絞って糊ローラーとドクターローラー表面の糊を糊タンクに落とします。
- ②糊付機械を停止させた後、上部フレームを開き、コントローラー、スリッター、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体より取り外してください。
(第24図参照)
- ③取り外したツメステー及びナラシローラーは、スポンジ等を使用して水洗いしてください。
- ④機械本体より糊タンクを完全に引き出し、糊タンクの中の糊を糊バケツに戻します。
※糊タンクを引き出す際に糊ローラーより糊が床に垂れることがありますので、予め床に養生しておいてください。
- ⑤糊タンクから糊上げローラーを外し（P35第25図参照）、スポンジ等を使用して糊上げローラーを水洗いしてください。この段階では、糊タンクは完全に洗浄せず、ゴムベラで掻き落せる分だけ糊を落します。
- ⑥糊上げローラーを外した状態で糊タンクを機械本体にセットします。
- ⑦手で糊ローラーを回転させながら、糊ローラー及びドクターローラーをスポンジ等で水洗いしてください。（P35第26図参照）
- ⑧再び機械本体から糊タンクを完全に引き出し、糊タンク内を洗浄します。

⚠ 警告

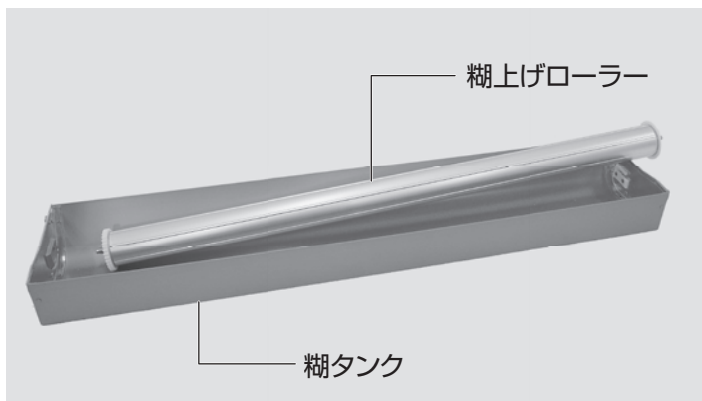
機械本体を洗浄するときは、コントローラー、スリッター及びオクリダシローラーを取りはずして行ってください。ローラーの間に手や衣類を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりするなどの思わぬ事故を未然に防ぎます。

△ 注意

糊ローラー、ドクターローラー表面の糊は完全に除去してください。薄い膜状に糊が残っているだけで糊付け状態が悪くなる場合があります。又、オクリダシローラー、検尺ローラーについても糊が表面に残っていると、表面にひび割れを起こし、正常な運転をしなくなる恐れがあります。



第24図



第25図



第26図

- ⑨ 糊上げローラーを糊タンクに取付け、機械本体にセットします。
- ⑩ スリッター、コントローラー、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体に取付けてください。
- ⑪ 洗浄後、乾いた布等で水分をよく拭き取ってください。また、脚やフレーム等に付着した糊もきれいに拭き取ってください。

△ 注意

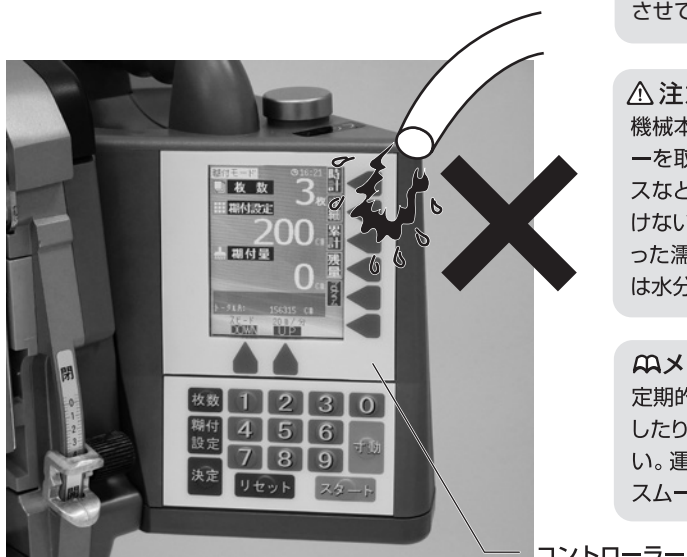
上フタの軸受カバーの内側にセンサー基板があります。センサー基板の部分には水や糊をかけないようにして下さい。万一かかった場合は、雑巾などで拭き取り乾燥させてください。

△ 注意

機械本体を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。第27図のようにホースなどで水を直接コントローラーやスリッター等に掛けないようにしてください。汚れを落とすときは固く絞った濡れ雑巾をご使用ください。水が掛かった場合には水分をよく拭き取ってください。

メモ

定期的にローラーの軸受部やギヤ部にグリスを注入したり、ギヤの歯に固まってついた糊を落としてください。運転中の異音の発生を防ぐとともに、常に機械をスムーズに運転させることができます。



第27図

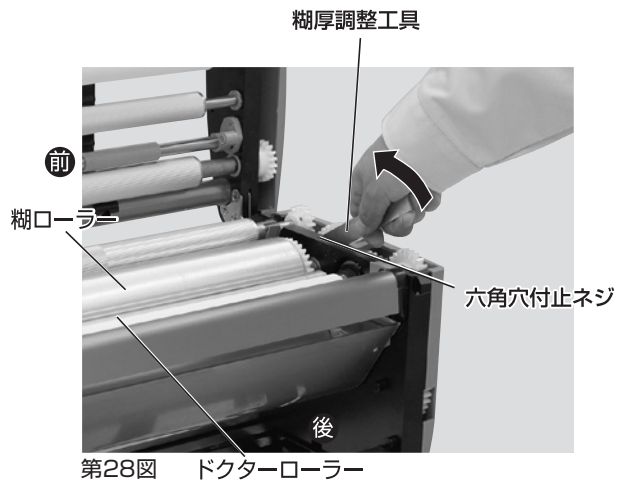
本機の調整・点検に当たりましては、付属の六角レンチ、糊厚調整工具の他に、プラスドライバーやボックスレンチ(10mm)等が必要ですので、事前に市販の工具を準備して下さい。

1. 糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整

【糊が絞れないときの調整】

(糊付機械に糊が入っていない状態で行うと容易です。)

- ①左右とも糊厚調整レバーを目盛0の位置にあわせ、糊厚ツマミを締めます。
- ②左右とも六角穴付止ネジを六角レンチ(3mm)で緩めてください。
- ③第28図のように、糊付けギヤと軸受板の間にある糊ローラーブッシュ六角部に付属の糊厚調整工具をはめ込み、矢印の向きにゆっくり動かしてください。糊ローラーが移動します。
- ④糊ローラーを手で回しながら、糊ローラーとドクターローラーのすき間が0mmの位置で、六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。



【左右で糊付量が違うときの調整】

(糊付機に糊を入れた状態で行うと容易です。)

例：左側を右側と同じ目盛にあわせる場合

- ①左右とも糊厚調整レバーを同じ目盛にして、糊厚ツマミを締めます。
- ②左側の六角穴付止ネジを緩めて、第28図のように糊厚調整工具を使って、糊ローラーを移動させます。
※矢印の向きに動かすと糊が絞れ、反対の向きに動かすと糊が多つくようになります。
- ③割込みスイッチで運転させて、糊量を確認してください。
※壁紙等で実際に糊付け確認すると、より正確に調整できます。
- ④左右のバランスが同じになったところで六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。

⚠ 警告

糊量の確認時を除き、コントローラーは取り外した状態で調整してください。

⚠ 注意

糊ローラーとドクターローラーは強く接触させないでください。接触させるとローラー表面が傷つき、糊付け状態が悪くなります。

⚠ 注意

左右の糊付状態を確認する時は、必ず上ブタを閉めてください。
上ブタが開いていると、実際の糊付状態と異なる場合があります。

2. 検尺ローラーのピンチ圧調整

(クロスの蛇行調整・クロス原反があがらないとき)

クロスが蛇行する場合やクロス原反が上がらないときは、ボックスレンチ(10mm)又はスパナ(10mm)で本体軸受板(3、4)の六角ナットを緩めてからピンチ圧調整用バネ止ネジ(六角穴付)を六角レンチ(3mm)で回してピンチ圧を調整してください。(第29図参照)

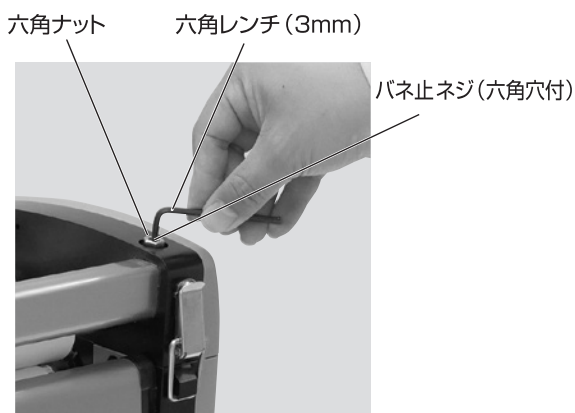
【例】

クロスが、糊付機械正面からみて左側に寄って出る場合

糊付機械正面からみて左側のピンチ圧調整用バネ止ネジ(六角穴付)を六角レンチで緩めてください(時計逆方向)。又は右側のピンチ圧調整バネ止ネジ(六角穴付)を六角レンチで締めてください(時計方向)。又、上記調整はクロス(糊付けなし)を通しながら行うと容易に行えます。調整が終わったらボックスレンチ(又はスパナ)で六角ナットを締めてください。

メモ

締めすぎるとクロスの糊付け長さは設定より若干長めに出るようになります。
また締めすぎ、緩めすぎてもクロスの引き上げ能力が落ちます。



第29図

3. カウント検知基板の反転

カウント検知基板とは、糊付の際に、引き出した壁紙の長さの検知を担っている部品です。正しくセットアップした状態でコントローラがセンサー読み込み異常(P33)を発する場合は、下記の手順に従い検知基板を反転させることで、改善する場合があります。

【手順】

- ①本体の上部フレームを持ち上げ、コントローラ側の軸受カバーの皿ビス3本を外します。(第30図参照)
- ②軸受カバーが外れ、内蔵されたカウント検知基板が確認できるようになります。基板を固定している、ナビビス2本を外します。その後、基板を矢印の向きに180°反転させます。(第31図参照)
- ③基板の穴のうち、使用していなかった2か所に外したナビビスを合わせ、基板を同じ位置になるように付け直します。
- ④軸受カバーを再度取り付けます。

この方法は動画でも確認できます。ページ内のQRコードを読み取り「メンテナンス解説動画」の「コントローラがカウントしない場合の対処方法」をご確認ください。



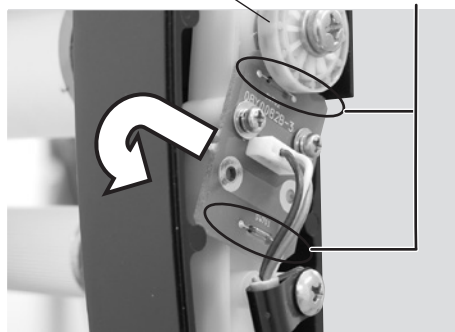
△ 注意

カウント検知基板には「リードスイッチ」が2か所あります。精密部品ですので、作業中はリードスイッチに衝撃を加えないよう注意してください。(第31図参照)



第30図

マグネットフィン リードスイッチ



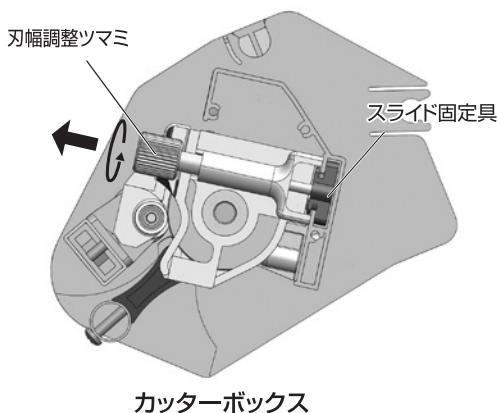
第31図

スリッターの刃物は、消耗品です。スリッターの切れ味が悪くなったら刃物（カッターボックス）を交換してください。厳密に修理する場合は、一旦当社へスリッターを戻していただき、詳細な点検調整を行ってください。

スリッターの刃物の交換方法

カッターボックスの外し方

- ① スリッターを本体から外してください。
- ② 刃幅調整ツマミを時計の針と逆方向に回し、後ろのスライド固定具から外してください。
(第32図参照)
- ③ SSブラケットと駆動軸を固定しているE型止メ輪(呼び径6)を(-)ドライバー等で取り外します。(第33図参照)
- ④ 左右の軸受カバーを固定しているビス各2個を(+)ドライバーで緩めて軸受カバーを外します。駆動軸ギヤが見える側は駆動軸端部の駆動軸ギヤを固定している六角穴付止メネジを六角レンチ(2.5mm)で緩めて取り外します。
(反対側は、この作業は不要です)
- ⑤ 駆動軸を矢印方向へ押し込んでいくと、カッターボックスが外れます。



第32図

⚠ 警告

刃物を交換するときは必ずスリッターを本体から取り外して行ってください。

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

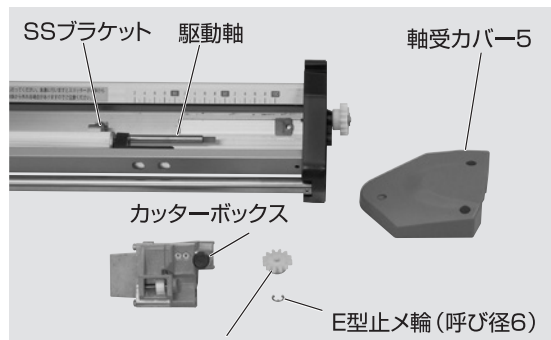
カッターボックスを分解しないでください。手を切る恐れがあります。

⚠ 注意

セラミッククロス、無機質クロス等、壁紙の種類によっては、極端に刃物を傷めますので注意してください。

メモ

スリッターの刃物は、3分間程度空回ししますと切れ味がよくなる場合があります。なお、空回しを行う際は研磨材に差油してから行い、終了時に拭き取るようにしてください。差油せずに行うと、異音が発生する場合があります。



第33図

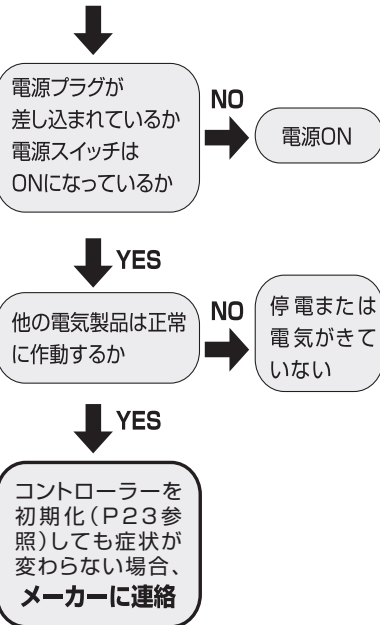
駆動軸ギヤ

故障かな?と思ったら

10

本機に異常が生じた場合は、次の手順に従ってチェックしてください。

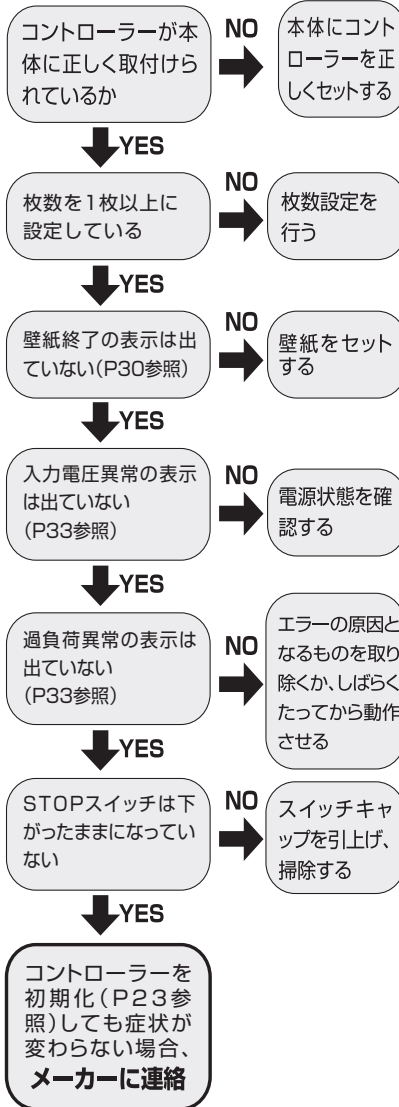
コントローラーの画面が表示されない



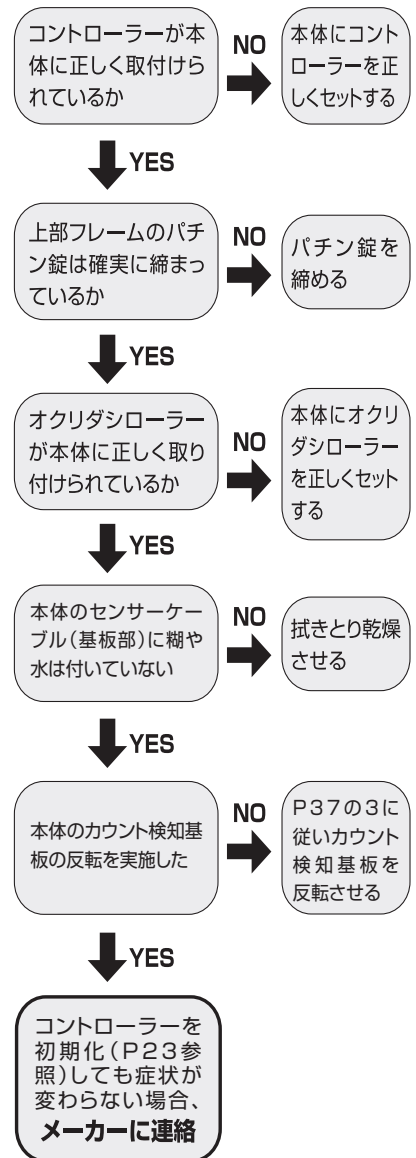
△注意

電圧低下、電圧変動、ノイズ等によりコントローラーが正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

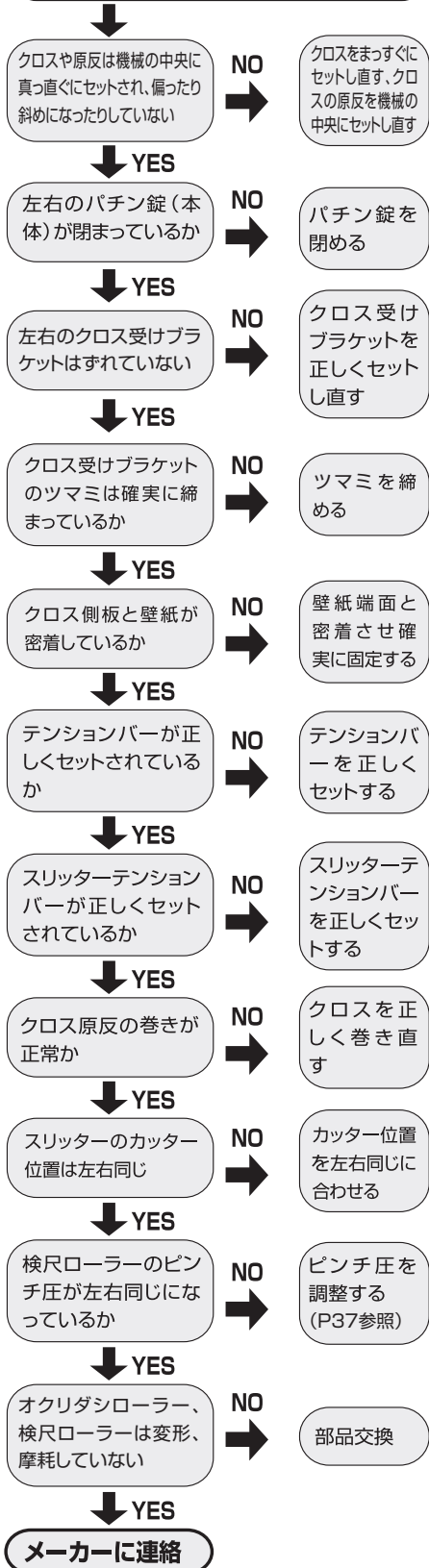
モーターが動かない



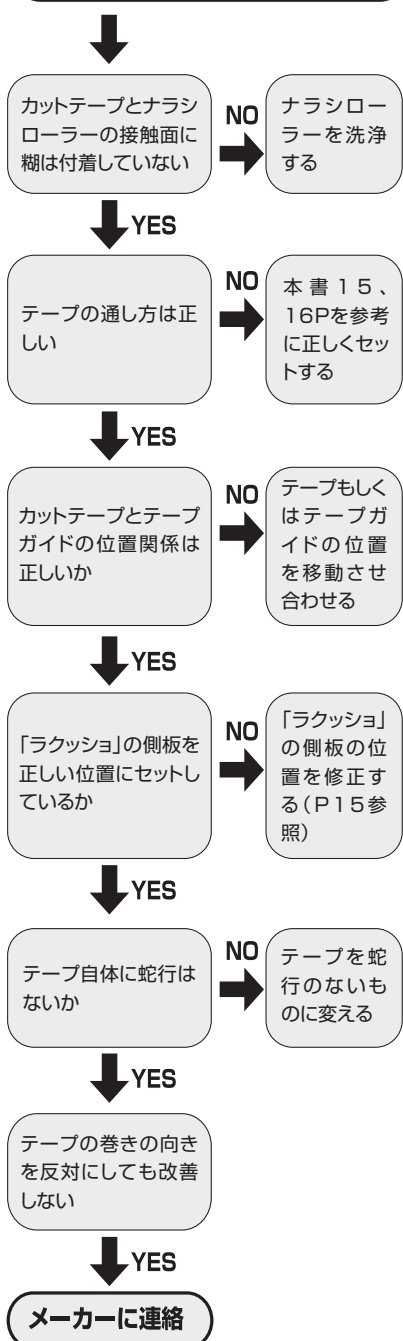
糊分量表示がカウントしない センサー読み異常の表示が出ている(P33参照)



クロスにしわが発生する クロスが蛇行する



カットテープが蛇行する だぶつく

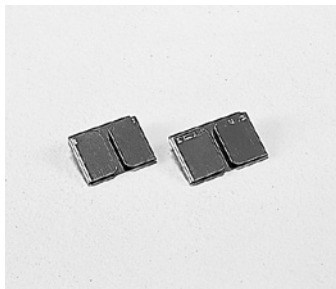




404-955 NEWコントローラー収納ボックス

※中仕切り付の高強度コントローラー収納ボックス

※コントローラーや付属品の収納、運搬に最適です。



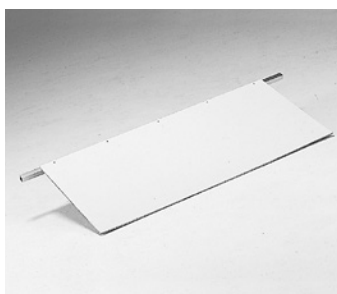
408-670 テープガイド38mm巾

408-671 テープガイド45mm巾

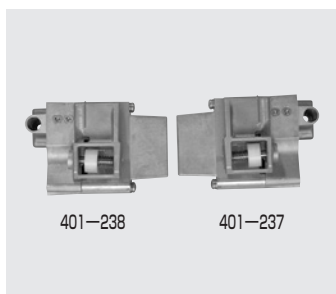


400-702

カットテープ取り付けキット“ラクッショ”



405-806 クロス受け板



401-238

401-237

401-237

カッターボックスセット(左)・SCRサイクル

401-238

カッターボックスセット(右)・SCRサイクル



316-524 PEカバーシート(3枚入)

※糊付機の本体を覆うPEカバーシートです。



404-918 NEWカバーシート

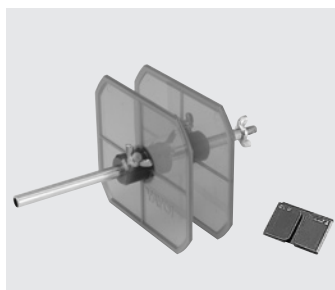
※現場のほこりをかぶらず、糊の乾燥防止にもなります。



408-642 φ75mmキャスター(ストッパー有)

408-643 φ75mmキャスター(ストッパー無)

※市販の薄型スパナ(19×21mm)を使用し、標準キャスター(φ100mm)と交換できます。



400-550

ワンタッチカットテープ取付キットQN

●本体

(本体カバー、クロス芯棒、テンションバー、付属品の重量は含んでおりません)

重 量	26 kg(本体部18.8kg 脚部7.2kg)
寸 法	全幅 1,180mm (コントローラー装着時 1,283mm)
	奥行 400mm (本体部 255mm)
	全高 850mm (脚折りたたみ時 423mm)
有効糊付幅	1,010mm
糊タンク容量	約12.5リットル

●スリッター

重 量	3.4 kg
寸 法	全幅 1,158 mm
	奥行 165 mm
	全高 121 mm
有効裁断幅	760~970 mm
電 源	コントローラーから供給
出 力	20W

●コントローラー

重 量	2.9 kg
電 源	AC100V 50Hz/60Hz
出 力	33W(最大180W)
消費電力	220W
糊付スピード	4~20m/分
使用温度範囲	0~40℃

※製品内容・仕様は改良等のため、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。



本 社 〒939 - 1272 富山県高岡市下麻生4649 TEL(0766)36-2800(代)

フリーダイヤル：0120-303-841